

大阪市立東中学校 令和 3 年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

校区は旧東区全域と広く、住居は主に校区東側に多い。生徒は、全体的に落ち着いた状況の中で学校生活を送っている。しかし近年、保護者が経済的な問題を抱えていたり、保護者が夜間不在であったり、生徒の監護が希薄な家庭が増えてきており、生活指導面でより一層のきめ細かな対応が求められている。特に、私立中学校をはじめとする他校からの転入生が、不登校傾向をはじめ、様々な問題を抱えている場合が顕著である。それは、転校理由として、いじめが原因で不登校に陥り、転校を余儀なくされた例や生活指導上の問題行動を抱え、友人関係を断ち切り環境を変えるべく転校してくるケースが多数を占める。

また、本校に通学する生徒の家庭環境をみると、比較的裕福な家庭が多い。しかし、保護者の子育て経験の未熟さや過保護から、生徒は基本的な生活習慣を身につけることができず、遅刻・欠席するケースや問題行動を起こしがちな生徒も見受けられる。一方で、お金だけを与え、子どもの成長に関心をもたず、ネグレクト状態にある生徒が毎年 20 名ほど在籍している。そのような生徒の中には、興味・関心をもち何かに取り組むといったよりよく生きようという意欲も欠け、不登校に発展しているケースもある。対策として、スクールカウンセラーや子ども相談センター等の関係諸機関との連携などを積極的に行っているが、生徒指導主事を始め学級担任においても日々の教育活動に忙殺され、時間的な余裕がなく根本的な解決には至っていないケースもある。

中期目標**【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】****市**

1. 令和 3 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。
2. 令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 95% 以上にする。
3. 令和 3 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。
4. 令和 3 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

学校園

1. 令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「より良い人間関係を築くために努力している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 95% 以上にする。
2. 令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「交通ルールを守ったり外出の仕方を考えるなど、犯罪や事故などに巻き込まれないよう安全を意識して生活している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 75% 以上にする。
3. 令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「災害に対して意識的に備えている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 75% 以上に

する。

4. 令和3年度の学校生活アンケートにおける「教育相談や進路懇談などで、気軽に相談しやすい先生がいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。
5. 令和3年度の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を95%以上にする。
6. 令和3年度の学校生活アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を95%以上にする。
7. 令和3年度の学校生活アンケートにおける「読書の習慣が身につく、本を読むことが好きになった」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を75%以上にする。
8. 令和3年度の学校生活アンケートにおける「参観等の各種行事やPTA活動などを通じて、学校教育活動に参加しようとしている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える保護者の割合を70%以上にする。また、令和3年度の学校生活アンケートにおける「学校行事やPTA活動、部活動等の場面で、保護者や地域に関わる取り組みを行っている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を85%以上にする。
9. 令和3年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでよく知ることができる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える保護者の割合を95%以上にする。
10. 令和3年度の学校生活アンケートにおける「図書館開館や学習会など学校元気アップの取り組みに参加している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。
11. 令和3年度の学校生活アンケートにおける「特別支援学級に在籍する生徒について、通常学級の一員として他の生徒と共に活動できるよう配慮している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を100%にする。
12. 令和3年度の学校生活アンケートにおける「鑑賞行事や体験学習を通じて、芸術や伝統文化のすばらしさや大切さを感じることができた」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。
13. 令和3年度性教育事後アンケートにおける「性教育で大切なことを学んだと思う」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を90%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

市

1. 令和3年度の中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度（3年1.14、2年1.16）より向上させる。
2. 令和3年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。
3. 令和3年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合

を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント増加させる。

4. 令和 3 年度の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度（92%）より増加させる。
5. 令和 3 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である 50m 走と立ち幅とびの平均の記録を、平成 28 年度より 50m 走(男子 8.17・女子 9.01)は 0.1 ポイント、立ち幅とび(男子 192.36・女子 169.61)を 3 ポイント向上させる。

学校園

1. 令和 3 年度学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授業の授業はわかりやすい」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 90%以上にする。
2. 令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を 95%以上にする。
3. 令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「調べ学習や資料提示等を通じて、学校図書館を活用した授業づくりを進めている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を 70%以上にする。
4. 令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「英語の授業でのアクティビティに積極的に取り組んでいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 90%以上にする。
5. 令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「学校は ICT 機器を活用して、授業実践に努めている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を 80%以上にする。
6. 令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「技術・家庭科技術分野の授業におけるプログラミング学習において、論理的に考えるための手順を学ぶことができた」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 80%以上にする。
7. 令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「帰国・来日等の生徒や外国にルーツのある生徒が学校生活を円滑に送れるよう、日本語指導をはじめとする直接的な支援をするとともに、違いを尊重し認め合えるよう配慮しながら教育活動を進めている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を 90%以上にする。
8. 令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「体力や運動能力向上のため、保健体育の授業や部活動等に積極的に取り組んでいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 70%以上にする。
9. 令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 85%以上にする。
10. 令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「栄養バランスや食べる時間・量等を考えて食事をするように心がけている。」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 80%以上にする。

まる)」と答える生徒の割合を 70%以上にする。

【その他】

学校園

1. 令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「校内研修は教育実践に役立つ有益なものとなっている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を 100%にする。
2. 令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「校区小学校と連携する機会を設け、小中の円滑な接続に努めるとともに、学習活動や生活指導等の場面で活用している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を 100%にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

1. 令和 3 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。
2. 令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 95%以上にする。
3. 令和 3 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。
4. 令和 3 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

1. 令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「より良い人間関係を築くために努力している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 95%以上にする。
2. 令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「交通ルールを守ったり外出の仕方を考えるなど、犯罪や事故などに巻き込まれないよう安全を意識して生活している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 75%以上にする。
3. 令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「災害に対して意識的に備えている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 75%以上にする。
4. 令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「教育相談や進路懇談などで、気軽に相談しやすい先生がいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 75%以上にする。
5. 令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 95%以上にする。

6. 令和3年度の学校生活アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を95%以上にする。
7. 令和3年度の学校生活アンケートにおける「読書の習慣が身につく、本を読むことが好きになった」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を75%以上にする。
8. 令和3年度の学校生活アンケートにおける「参観等の各種行事やPTA活動などを通じて、学校教育活動に参加しようとしている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える保護者の割合を70%以上にする。また、令和3年度の学校生活アンケートにおける「学校行事やPTA活動、部活動等の場面で、保護者や地域に関わる取り組みを行っている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を85%以上にする。
9. 令和3年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでよく知ることができる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える保護者の割合を95%以上にする。
10. 令和3年度の学校生活アンケートにおける「図書館開館や学習会など学校元気アップの取り組みに参加している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。
11. 令和3年度の学校生活アンケートにおける「特別支援学級に在籍する生徒について、通常学級の一員として他の生徒と共に活動できるよう配慮している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を100%以上にする。
12. 令和3年度の学校生活アンケートにおける「鑑賞行事や体験学習を通じて、芸術や伝統文化のすばらしさや大切さを感じることができた」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。
13. 令和3年度性教育事後アンケートにおける「性教育で大切なことを学んだと思う」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を90%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

1. 令和3年度の中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度（3年1.14、2年1.16）より向上させる。
2. 令和3年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。
3. 令和3年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。
4. 令和3年度の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度（92%）より増加させる。
5. 令和3年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である50m走と立ち幅とびの平均の記録を、平成28年度より50m走(男子8.17・女子9.01)は0.1ポイント、

立ち幅とび(男子 192.36・女子 169.61)を 3 ポイント向上させる。

学校園の年度目標

1. 令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授の授業はわかりやすい」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 90%以上にする。
2. 令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を 95%以上にする。
3. 令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「調べ学習や資料提示等を通じて、学校図書館を活用した授業づくりを進めている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を 70%以上にする。
4. 令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「英語の授業でのアクティビティに積極的に取り組んでいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 90%以上にする。
5. 令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「学校は ICT 機器を活用して、授業実践に努めている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を 80%以上にする。
6. 令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「技術・家庭科技術分野の授業におけるプログラミング学習において、論理的に考えるための手順を学ぶことができた」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 80%以上にする。
7. 令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「帰国・来日等の生徒や外国にルーツのある生徒が学校生活を円滑に送れるよう、日本語指導をはじめとする直接的な支援をするとともに、違いを尊重し認め合えるよう配慮しながら教育活動を進めている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を 90%以上にする。
8. 令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「体力や運動能力向上のため、保健体育の授業や部活動等に積極的取り組んでいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 70%以上にする。
9. 令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気を付けている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 85%以上にする。
10. 令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「栄養バランスや食べる時間・量等を考えて食事をするように心がけている。」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 70%以上にする。

【その他】

学校園の年度目標

1. 令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「校内研修は教育実践に役立つ有益なものとなっている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を 100%以上にする。

2. 令和3年度の学校生活アンケートにおける「校区小学校と連携する機会を設け、小中の円滑な接続に努めるとともに、学習活動や生活指導等の場面で活用している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を100%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

1. 令和3年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。

1について、本年度は教育相談の中でいじめを担任や学年の先生に打ち明け、認知する場面が多かった。教育相談についてはさらなる充実に努めたい。今後も生徒会を中心とした「いじめについて考える日」の実施において、生徒が主体的にいじめについて考え行動する取組を展開する。また、「いじめ事案を予防する環境づくり」について、さらに充実した取組を実践していきたい。
2. 令和3年度の学校生活アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童(生徒)の割合を95%以上にする。

2について、肯定的に答える生徒の割合は97%となり、年度目標を2ポイント(+)で達成している。今後もきめ細かな指導を継続しながら、規範意識のさらなる向上をめざす。
3. 令和3年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童(生徒)数を前年度より減少させる。

3について、暴力行為を複数回行う加害児童(生徒)数を前年度より減少させるについても、この項目に該当する事象は発生していない。日頃の生徒への丁寧な指導を継続するとともに、暴力行為を許さない集団の育成を進める。
4. 令和3年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童(生徒)の割合を前年度より減少させる。

4について、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少した。また、不登校生に対する家庭訪問の実施や情報交換の充実、関係諸機関との連携は深まっており、各学年、各学級において不登校生徒に対する支援、および家庭との連携も向上している。増加傾向にある不登校生について、個々のケースを分析し必要があれば積極的に関係諸機関と連携をしながら、寄り添った指導を継続して展開できるような環境の構築をめざす。また、今年度は生活指導支援員の配置(週2日)を活用し「HER(ひがしエンパワーメントルーム)」を設置し、不登校課題の解消に繋げる第一歩を踏み出すことができ、不登校生徒の学校へのステップとして一定の成果を得ることができた。

学校園の年度目標

1. 令和3年度の学校生活アンケートにおける「より良い人間関係を築くために努力している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を95%以上にする。

1について、肯定的に回答する生徒の割合は94%と目標を1ポイント下回った。今後も

学校行事や委員会活動、班活動をはじめとした仲間を大切にする集団育成を通じて、一人ひとりが自らの役割を全うして達成感や充実感を感じる場面を増やし、人間関係の構築に必要な力をつけさせたい。

2. 令和3年度の学校生活アンケートにおける「交通ルールを守ったり外出の仕方を考えるなど、犯罪や事故などに巻き込まれないよう安全を意識して生活している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を75%以上にする。

2について、肯定的に答える生徒の割合が94%であった。昨年度を1ポイント下回ったものの、年度目標は19ポイント(+)となり目標を大きく上回った。交通事故や犯罪、事故は予測が不可能であるため継続的に講話などを通して、生徒たちに交通ルールやマナーを順守する意識をさせ未然防止を図る必要がある。今後も全校集会での講話、定期的な巡視、リーフレットの配布などの啓発活動に努めたい。

3. 令和3年度の学校生活アンケートにおける「災害に対して意識的に備えている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を75%以上にする。

3について、肯定的に答えた生徒の割合は後期で78%となり、目標を達成している。2回目の避難訓練は火災に伴う訓練で、消防署の立ち合いのもとで実施した。昨年度の消防署の方より指導いただいた事項は、今年度の避難訓練に取り入れて実施できた。新型コロナウイルス対策で1回目と同様、間隔を開けて歩いて行動し避難経路の確認を目的に行い、避難に要した時間は5分46秒であった。来年度は避難形態や集合・点呼の方法、避難訓練の実施時間帯等について見直し・検討していきたい。

4. 令和3年度の学校生活アンケートにおける「教育相談や進路懇談などで、気軽に相談しやすい先生がいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。

4について、肯定的に回答する生徒の割合は昨年度より1ポイント上回って81%となり、目標を達成することができた。定例の教育相談や進路相談のみならず、普段から生徒に寄り添いながら細やかな声掛けと丁寧な説明を心掛けさらに生徒理解を深めていきたい。

5. 令和3年度の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を95%以上にする。

5について、肯定的に答える生徒の割合は95%となり目標を達成した。前期の集中実践として昨年度に引き続き、平和学習を変更して新型コロナウイルス感染症に関わる差別・いじめの人権学習を行い、中央区人権教育実践交流会で報告した。後期の集中実践として1年生の障がい者学習では外部講師を招聘して中央区中学生対象手話講習会を開催した。2年生の国際理解教育と3年生の障がい者学習では視聴覚教材を活用した。2年間に亘って新型コロナウイルス感染症に関わる差別・いじめの人権学習を前期集中実践に行ってきたが、来年度以降は平和学習やLGBTQなど、新たな人権学習に取り組んでいきたい。

6. 令和3年度の学校生活アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがあ

る」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を95%以上にする。

6について、肯定的に回答する生徒の割合は90%となり、目標を5%下回った。1年生での職業講話や2年生での職場体験学習(本年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止)、3年生プレハイスクールセミナーなどの体験的な活動を積みあげながら、自分自身を見つめることで3年次の進路指導につなげるなど、発達段階に応じた体系的な取組を継続していく。

7. 令和3年度の学校生活アンケートにおける「読書の習慣が身につく、本を読むことが好きになった」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を75%以上にする。

7について、肯定的に答える生徒の割合は全体の74%で目標をと目標をわずかに下回った。本年度も引き続き全学年で朝読書を実施し、落ち着いて本を読む環境を整えている。3年生では「読書の習慣が身につく、本を読むことが好きになった」と答える生徒の割合は常に80%を越えている。次年度は図書館利用を含め、読書習慣の取組をさらに進め、年度目標達成をめざす。

8. 令和3年度の学校生活アンケートにおける「参観等の各種行事やPTA活動などを通じて、学校教育活動に参加しようとしている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える保護者の割合を70%以上にする。また、令和3年度の学校生活アンケートにおける「学校行事やPTA活動、部活動等の場面で、保護者や地域に関わる取り組みを行っている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を85%以上にする。

8における学校教育活動に参加に関する項目について、肯定的に答える保護者の割合は83%であり、目標を達成することができた。また、保護者や地域に関わる取組に関する項目について、肯定的に答える教職員の割合は100%であった。コロナ禍において、保護者の方に学校の教育活動を直に見学いただく機会が少ないが故に、あらゆる機会を活かして保護者・地域と関わろうとする教員の姿勢により学校・家庭・地域の協力体制が築かれている。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校行事やPTA活動に制限がある状況下ではあったが、保護者メールや学校ホームページ、各種通信等による情報発信に取り組んだ。また、体育大会におけるPTAによる「YouTubeライブ」を活用したライブ配信・録画配信、12月の懇談時に合唱コンクールの録画映像を放映、文化発表会や12月保護者分散参観では、PTAによる受付等体制の協力を得て保護者分散参観を安全に実施するなど創意工夫をした。今後もさらに開かれた学校づくりを推進し、学校・家庭・地域による、より強固な協力体制の構築をさらに進めていきたい。

9. 令和3年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでよく知ることができる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える保護者の割合を95%以上にする。

9について、肯定的に答える保護者の割合は96%で目標を1ポイント上回って目標を達成した。今後も保護者や地域の方々に本校の教育内容をより理解してもらうために、学年

だよりの発行とともにホームページの更新に努める。

10. 令和3年度の学校生活アンケートにおける「図書館開館や学習会など学校元気アップの取り組みに参加している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。

10について、パーテーションの導入など、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を施しながら、図書館開館、学習会の実施を進めている。学校元気アップのボランティアの手伝いによる、1年生の図書館開きの授業を行うことができた。また、学校元気アップのボランティアの手伝いによる、1年生の図書館開きの授業を行うことができた。しかし、図書館利用者は延べ2829名と昨年(3625名)より減少した。また、図書館の利用や学習会を通して学校元気アップ事業に参加しているという生徒の意識は低く、アンケート結果は32%と目標を下回った。次年度も、利用や参加者・ボランティアがさらに増えるよう活動情報を積極的に発信していく。

11. 令和3年度の学校生活アンケートにおける「特別支援学級に在籍する生徒について、通常学級の一員として他の生徒と共に活動できるよう配慮している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を100%にする。

11について。肯定的に答える教職員の割合は100%であり、目標を達成することができた。2ヶ月に1回の特別支援教育委員会や学年会などにおける情報共有に加えて、日頃から特別支援学級担任から通常学級担任との情報共有がきっちりと行われている成果と考えられる。今後も生徒や保護者に対してきめ細かな対応を図り、保護者の願いを丁寧に受け止めながら、特別支援学級生徒が学級や学年の一員として、充実した学校生活が送れるように個々の生徒に合わせた支援を行っていく。

12. 令和3年度の学校生活アンケートにおける「鑑賞行事や体験学習を通じて、芸術や伝統文化のすばらしさや大切さを感じる事ができた」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。

12について、肯定的に答える生徒の割合は89%であり、目標を達成することができた。コロナ禍のため、本年度は芸術鑑賞会を文化発表会のスケジュール内に組み込んで実施した。夏季休業中に生徒会が校区内の2ヶ所の能楽堂を見学し、インタビューに答えていただいたものを動画編集し、文化発表会において各教室で鑑賞した。地域の伝統芸能に触れ、表現の豊かさや素晴らしさを感じることができる機会を確保することができた。事後の効果検証を着実に行之、次年度以降の実施の有無や実施内容の選定に活用する。

13. 令和3年度性教育事後アンケートにおける「性教育で大切なことを学んだと思う」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を90%以上にする。

13について、肯定的に答える生徒の割合は93%となり、目標を上回った1年生は、3学期にティーンズヘルスセミナーを実施した。2年生はLGBTQについて、3年生は性感染症についての内容を保健体育の授業の中で実施した。今後も生徒の実態に合わせた性教育

を計画し実施していく。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

1. 令和 3 年度の中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度（2 年 1.16、3 年 1.14）より向上させる。

1 について、3 年生の中学生チャレンジテストについては、5 教科の対府平均比は 1.08、3 教科の対府平均比は 1.1 で、昨年度の 5 教科 1.14、3 教科 1.16 から、どちらも 0.06 ポイント下回った。2 年の 3 教科の対府平均比は 1.17 で、昨年を 0.01 ポイント上回った。5 教科の対府平均比は 1.15 であった。1 年の 3 教科の対府平均比は 1.13 であった。さらに公開授業等の研修を生かし、次年度も授業改善に努め、チャレンジテストの結果の向上に繋げていく。
2. 令和 3 年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント減少させる。

2 について、3 年生は、昨年度 2 年生時の 13.6%から本年度は 14.2 と 0.6 ポイント増加した。2 年生は、昨年度 1 年生時の 8.6%から本年度は 9.7%と 1.1 ポイント増加した。なお、1 年生は 10.1%であった。今後も予習・復習に活用できるような家庭学習教材の提供や、自主的学習を促すような授業・教材をより工夫していく。また、ICT 機器を利用した家庭学習なども提供していけるようにする。
3. 令和 3 年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を 2 割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント増加させる。

3 について、3 年生は、昨年度 2 年生時の 44.0%から本年度は 41.0%と 3.0 ポイント減少した。2 年生は、昨年度 1 年生時の 50.8%から本年度は 52.4%と 1.6 ポイント減少した。なお、1 年生は 43.3%であった。今後も予習・復習に活用できるような家庭学習教材の提供や、自主的学習を促すような授業・教材をより工夫していく。また、ICT 機器を利用した家庭学習なども提供していけるようにする。
4. 令和 3 年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度（92%）より増加させる。

4 について、肯定的に答える生徒の割合は 92%となり、前年度と同様のポイントとなった。話し合う活動の機会を確保しながら、根拠に基づいた考えを発表し再考させることで、自らの考えを深めたり広げたりする学習展開を実践していく。
5. 令和 3 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である 50m 走と立ち幅とびの平均の記録を、平成 28 年度より 50m 走は 0.1 ポイント、立ち幅とびを 3 ポイント向上させる。

5 について、50m 走は男子が H28(8.06)、R3(7.98)となり 0.08 ポイントプラス、女子は H28(8.76)、R3(8.70)となり 0.06 ポイントプラスとなった。立ち幅とびは男子が H28(197.68)、R3(200.41)となり 2.73 ポイントプラス、女子は H28(167.33)、R3(168.88)

となり 1.55 ポイントプラスとなった。2 種目男女ともに目標を達成することができた。今後は、毎時間実施している準備運動に継続して取り組むとともに、生涯にわたり運動に親しむ姿勢を育むために、全ての単元において小集団での協同学習授業の展開に重点を置き、学び合いの中からリーダー育成、運動が苦手な生徒の支援などに取り組む。

学校園の年度目標

1. 令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授の授業はわかりやすい」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 90% 以上にする。

1 について、肯定的に答える生徒の割合は、国語・英語は 89% となり 1 ポイント下回った。数学 90% となり目標と同じ値となり目標を達成した。今後も生徒の実態に即したクラス編成を行い、学力向上に向けて丁寧な学習指導を進めていく。

2. 令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を 95% 以上にする。

2 について、肯定的に答える教職員の割合は 100% となり、目標を 5 ポイント上回った。コロナ禍において、班活動等による言語活動に制限がかかる中、ICT 機器を活用しながら協同学習の実施形態等の工夫が随所に散見された。今後は、さらに公開授業等での研修を生かし、授業の工夫と改善に努め、思考力・判断力・表現力の更なる育成を図る。

3. 令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「調べ学習や資料提示等を通じて、学校図書館を活用した授業づくりを進めている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を 70% 以上にする。

3 について、肯定的に答える教職員の割合が 93% と目標を 23 ポイント大幅に上回った。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のために図書室の利用が制限された。また、班をはじめとした言語活動を活発に行うことが難しい状況にあった。今後は調べ学習や資料提示等に対応しうる図書整備を進めながら、ICT を活用した授業や教材づくりをさらに充実させていく。

4. 令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「英語の授業でのアクティビティに積極的に取り組んでいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 90% 以上にする。

4 について、肯定的に答える生徒の割合は 88% (前年度と同様) となり、目標に 2 ポイント届かなかった。コロナ禍で活動が制限されてくる中ではあるが、高い数値を維持することができた。今後も限られた C-NET (大阪市外国人英語指導員) の授業を効果的に活用し、また、さまざまなアクティビティを取り入れることで、英語を活用する実践的な力と積極的な態度を育成する。

5. 令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「学校は ICT 機器を活用して、授業実践に努めている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を 80% 以上にする。

5 について、肯定的に答える教職員の割合は 100% となり、目標を 20 ポイント上回った。毎月定例の職員会議において、ICT 教育推進部長より研修会を実施し全教職員での研修の機会の確保に努めた。その成果もあり、オンライン授業やハイブリッド授業の準備と

実施、1人1台学習者用端末の活用（心の天気）など、着実に歩みは進めている。今後はさらなる効果的な活用に向けて取組を推進していく。

6. 令和3年度の学校生活アンケートにおける「技術・家庭科技術分野の授業におけるプログラミング学習において、論理的に考えるための手順を学ぶことができた」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。

6について、肯定的に答える生徒の割合は90%となり、目標を10ポイント上回った。次年度は3年生の授業数が週0.5時間になることを考え、実習の時間をしっかりと確保するための準備を行っていく必要がある。

7. 令和3年度の学校生活アンケートにおける「帰国・来日等の生徒や外国にルーツのある生徒が学校生活を円滑に送れるよう、日本語指導をはじめとする直接的な支援をするとともに、違いを尊重し認め合えるよう配慮しながら教育活動を進めている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える教職員の割合を90%以上にする。

7について、肯定的に答える教職員の割合は97%であり、目標を達成することができた。電子翻訳機を各学年に1台ずつ配備するとともに、区役所事業による外国籍生徒サポーターを活用し、日本語指導の充実を図った。また、日本語教室の通級が修了したが、未だ支援を要する1年生の生徒に対しては、週2回の国語の授業でもう一人教員が補助に入る体制を整え、支援を行っている。

8. 令和3年度の学校生活アンケートにおける「体力や運動能力向上のため、保健体育の授業や部活動等に積極的取り組んでいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を70%以上にする。

8について、肯定的に答える生徒の割合は92%となり、年度目標である70%を大きく上回った。生徒たちの主体的な活動の推進を目標として授業の計画や実践に努めている。その成果もあり、生徒が体育授業に積極的に参加する環境が整いつつある。しかしながら、体育（運動）を苦手とする生徒へのアプローチの課題について、すべての生徒が授業への興味関心を高めることができるよう、ICT機器を積極的に活用し、生徒たちの思考力・判断力を育む資料の提供にも注力していきたい。

9. 令和3年度の学校生活アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を85%以上にする。

9について、肯定的に答える生徒の割合は前年度と同じ98%となり、目標値を大きく上回った。「保健だより」等のプリント配布や、ポスター掲示を通して健康に関する啓発を行った。また、各教室においても、換気・空気清浄機の利用・消毒液の設置・手洗い・黙食の実施など健康的な生活の維持に努めている。今後も、新型コロナウイルスへの対策も日々の検温・手洗い指導・マスクの着用・消毒作業等を通して意識を持ち続けさせる取組を進めていく。

10. 令和3年度の学校生活アンケートにおける「栄養バランスや食べる時間・量等を考えて食事をするように心がけている。」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を70%以上にする。

10について、肯定的に答える生徒の割合は81%であり目標値を上回った。『食育だより』は月1回のペースで配布した。1年生では昨年度に引き続き、4月に食育の内容で授業を行った。2年生では給食係が残食調査を行った。来年度も新型コロナ対策の観点から、黙食にも気を付けた中で食育に取り組んでいきたい。

【その他】

学校園の年度目標

1. 令和3年度の学校生活アンケートにおける「校内研修は教育実践に役立つ有益なものとなっている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を100%にする。

1について、肯定的に答える教職員の割合は100%となり目標を達成した。今年度は4月に生活指導研修、9月にICT研修、10月にはLGBTQの研修を実施した。また、職員会議の際にはICT研修を毎回実施している。今後は、リモート授業を見据えたうえでの教育活動の諸課題解決に向けた実践力向上をめざして研鑽を積むことの必要性の啓発や、よりニーズに合ったテーマを精選し、主体的な学びが構築できるよう研修を定期的の実施していきたい。

2. 令和3年度の学校生活アンケートにおける「校区小学校と連携する機会を設け、小中の円滑な接続に努めるとともに、学習活動や生活指導等の場面で活用している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を100%にする。

2について、肯定的に答える教職員の割合は100%となり、目標を達成した。本年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、体験学習や部活動見学、小中連絡会は実施できなかったが、生徒会による学校紹介を作成したDVDの視聴により実施するなど取組の工夫を行った。次年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点を持ち、新たな小中の取組を検討し、小中の取組の連携をよりよくするための有意義な交流をめざす。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ol style="list-style-type: none"> 令和3年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 令和3年度の学校生活アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を95%以上にする。 令和3年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。 令和3年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。 <p>学校園の年度目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 令和3年度学校生活アンケートにおける「より良い人間関係を築くために努力している」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を95%以上にする。 令和3年度の学校生活アンケートにおける「交通ルールを守ったり外出の仕方を考えるなど、犯罪や事故などに巻き込まれないよう安全を意識して生活している」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を85%以上にする。 令和3年度の学校生活アンケートにおける「災害に対して意識的に備えている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を75%以上にする。 令和3年度の学校生活アンケートにおける「教育相談や進路懇談などで、気軽に相談しやすい先生がいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。 令和3年度の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を95%以上にする。 令和3年度の学校生活アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を95%以上にする。 令和3年度の学校生活アンケートにおける「読書の習慣が身につく、本を読むことが好きになった」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を75%以上にする。 令和3年度の学校生活アンケートにおける「参観等の各種行事やPTA活動などを通 	B

<p>じて、学校教育活動に参加しようとしている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える保護者の割合を 70%以上にする。また、令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「学校行事や PTA 活動、部活動等の場面で、保護者や地域に関わる取り組みを行っている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を 85%以上にする。</p> <p>9. 令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでよく知ることができる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える保護者の割合を 95%以上にする。</p> <p>10. 令和 3 年度学校生活アンケートにおける「図書館開館や学習会など学校元気アップの取り組みに参加している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 80%以上にする。</p> <p>11. 令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「特別支援学級に在籍する生徒について、通常学級の一員として他の生徒と共に活動できるよう配慮している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を 100%にする。</p> <p>12. 令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「鑑賞行事や体験学習を通じて、芸術や伝統文化のすばらしさや大切さ感じる事ができた」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 80%以上にする。</p> <p>13. 令和 3 年度性教育事後アンケートにおける「性教育で大切なことを学んだと思う」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 90%以上にする。</p>	
--	--

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (教務部)	進捗状況
<p>取組内容①【施策 2 道徳心・社会性の育成】(学-7)</p> <p>教科授業だけでなく様々な活動の中で、コミュニケーション活動を取り入れた内容を実施する。また、読書活動を充実させるため、朝読書の習慣化、図書室を利用した授業を実施する。言語力の育成に向け、表現活動や「学び合い」の機会を増やす。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 3 年度の学校生活アンケートにおいて「読書の習慣が付き、本を読むことが好きになった」と答える生徒の割合を全体の 75%以上をめざす。 令和 3 年度の学校生活アンケートにおいて「自分の意見をまとめたり、発表する機会がよくある」と答える生徒の割合を昨年度と同等以上にする。 	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 3 年度の学校生活アンケートにおいて「読書の習慣が付き、本を読むことが好きになった」と答える生徒の割合は全体の 74%と目標をわずかに下回った。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 本年度も引き続き全学年で朝読書を実施し、落ち着いて本を読む環境を整えている。目標にはわずかに届かなかったが、3 年生では「読書の習慣が付き、本を読むことが好きになった」と答える生徒の割合は常に 80%を越えている。 令和 3 年度の学校生活アンケートにおいて「自分の意見をまとめたり、発表する機会がよくある」と答える生徒の割合は 71%で、昨年度よりも 3 ポイント上回った。 	

次年度への改善点	
【目標設定】について	
・図書室や学級文庫については感染対策を行ったうえで実施することができた。次年度も引き続き取り組みを進めていく。またコロナ禍の影響はあるが、授業の多くの場面で、言語活動を取り入れた授業や特別活動を行い、思考力・判断力・表現力を高める取り組みを展開する。	
取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】(学-12)	A
体験的な学習や表現・発表する取り組みを設定し、また、実験・実習を積極的に取り入れるなど生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習を実施する。毎年、鑑賞行事を取り入れ、3年間で演劇・古典芸能・音楽を鑑賞できるよう計画して実施する。	
指標	
・令和3年度の学校生活アンケートにおける「鑑賞行事や体験学習を通じて、芸術や伝統文化のすばらしさや大切さを感じることができた」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。 ・令和3年度の学校生活アンケートにおいて「実験、観察、実習などの授業に、興味を持って参加している」と答える生徒の割合を全体の70%以上にする。 ・今年度は古典芸能を実施する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
・昨年度に引き続き、DVDによる鑑賞、生徒会による伝統芸能についての発表などを行うことができた。そのためか、令和3年度の学校生活アンケートにおける「鑑賞行事や体験学習を通じて、芸術や伝統文化のすばらしさや大切さを感じることができた」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合は89%となり、目標を9ポイント上回った。	
【取組内容】について	
・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、1年一泊移住や2年職場体験などは実施できなかったが、代替案として、それぞれ校外学習を実施することができた。 ・授業においても、実験・実習など、興味関心をもって生徒が自主的・自発的に学習できる工夫を行ってきた。令和3年度の学校生活アンケートにおいて「実験、観察、実習などの授業に、興味を持って参加している」と答える生徒の割合は全体の89%と目標を19ポイント上回った。 ・芸術鑑賞については、コロナ禍では集団で鑑賞をすることが難しく、来年度に向けては実施の有無も含め検討する必要がある。	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
・次年度も引き続き、体験的で生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な活動を、授業や校外学習、泊行事などに取り入れていく。	
取組内容③【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】(学-10)	C
地域の施設及び人材活用を積極的に行い、それらを取り入れた学習活動を充実する。	
指標	
・学校元気アップ地域本部事業において、令和3年度はPTAや地域・学生等のボランティアの数を20名以上集める。 ・令和3年度の学校生活アンケートにおける「図書館開館や学習会など学校元気アップの取り組みに参加している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当て	

はまる)」と答える生徒の割合を 80%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none">令和3年度の学校生活アンケートにおける「図書館開館や学習会など学校元気アップの取り組みに参加している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合は 32%で目標を 48 ポイント下回った。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none">パーティーの導入など、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を施しながら、図書館開館、学習会の実施を進めている。しかし、延べ図書館利用者は 2829 名と昨年(3625 名)より減少した。また、図書館の利用や学習会を通して学校元気アップ事業に参加しているという生徒の意識は低く、アンケート結果は 32%と目標を下回った。学校元気アップのボランティアの手伝いによる、1 年生の図書館開きの授業を行うことができた。本年度は、学校元気アップ地域本部事業において、12 月までに P T A や地域等のボランティアの数を 18 名集めることができた。	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none">今後も、利用や参加者・ボランティアがさらに増えるよう活動情報を積極的に発信していく。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (ICT 教育推進部)	進捗状況
取組内容①【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】(学-9) 学校ホームページなどを活用し、東中学校の教育内容を広く保護者や地域に理解してもらう。	B
指標 <ul style="list-style-type: none">令和3年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでよく知ることができる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える保護者の割合を 95%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none">学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでよく知ることができる」と答える保護者の割合は 96%であった。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none">今年度前期のアンケート結果から 1 ポイント上昇している。日々の授業の記事や体育大会の YouTube 配信の効果ではないかと思われるが、昨年度後期のアンケート結果と比較すると、2 ポイント下がっている。	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none">新型コロナウイルス感染症に関わる連絡など、重要な連絡事項が多いのでさらに数値を上げていくための工夫が必要である。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（生活指導部）	進捗状況
<p>取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】（市－4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主任会、生活指導部会で不登校生については、その対応策について常に議論し具体的な対応策のもとに学年、生活指導部の連携を軸とした組織的対応を心がける。また「不登校対策委員会」をさらに充実させる。 ・学年ごとに迅速かつ正確に実態把握を行うとともに、情報交換を充実させる。生徒指導主事、学年主任、担任など、常に複数の教職員で実態に沿った課題の解決に向け協議し、決定した内容を確実に遂行する。 ・課題の解決に向けて、関係諸機関とも積極的に連携をする。 ・諸会議における不登校生の報告を行う際に、現状のみではなく、現状と対応状況をあわせて報告するよう意識をする。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の学年打ち合わせ、または主任会、生活指導部会において、不登校生徒の状況について報告し具体的な支援、対応策を明確に示し対応にあたる。 ・令和3年度の学校生活アンケートにおける「不登校生徒への対応については、家庭訪問や定期的な連絡で家庭と連携しながら改善をめざしている。」の項目について、「よく当てはまる（ほぼ当てはまる）」と答える教職員の割合を90%以上にする。 ・令和3年度の学校生活アンケートにおける「不登校生徒について、教職員が協力して組織的に指導にあたるような体制の充実に努めている。」の項目について、「よく当てはまる（ほぼ当てはまる）」と答える教職員の割合を90%以上にする。 ・令和3年度の学校生活アンケートにおける「充実した学校生活を過ごせている。」の項目について、「そう思う（ややそう思う）」と答える生徒の割合を85%以上にする。 ・令和3年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合が前年度より減少した。また、不登校生に対する家庭訪問の実施や情報交換の充実、関係諸機関との連携は深まっており、各学年、各学級において不登校生徒に対する支援、および家庭との連携も向上している。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度後期学校生活アンケート結果では「不登校生徒への対応については、家庭訪問や定期的な連絡で家庭と連携しながら改善を目指している。」の項目について、「よく当てはまる（ほぼ当てはまる）」と答える教職員の割合が令和2年度後期の97%より(-1)となり96%となった。年度目標の90%を6ポイント上回った。 ・「不登校生徒について、教職員が協力して組織的に指導にあたるような体制の充実に努めている。」の項目について、「よく当てはまる（ほぼ当てはまる）」と答える教職員の割合が令和2年度後期の97%より(-1)となり96%となった。年度目標の90%以上を6ポイント上回った。 ・「充実した学校生活を過ごせている。」の項目について、「そう思う（ややそう思う）」と答える生徒の割合が令和2年度後期の91%から(-1)となり90%になった。年度目標の85%を5ポイント上回った。 	

次年度への改善点	
【目標設定】について	
・どの項目においても、前年度の後期よりも下回った。しかし、令和3年度前期の数値よりも改善されているため、今後も組織的な対応の充実に努めたい。	
取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】（市－2）	A
・学校生活を通じて、日常的に全教職員で集団規律の確立を心がけ、あいさつ・適切な言葉遣い・服装・頭髪等の生徒の規範意識を育む指導を継続的に取り組む。	
指標	
・令和3年度の学校生活アンケートにおける「教職員は共通理解を図り、きまりを守り、節度ある生活態度を身につけさせる生徒指導を行っている。」の項目について、「よく当てはまる（ほぼ当てはまる）」と答える教職員の割合を90%以上にする。	
・令和3年度の学校生活アンケートにおける「挨拶指導や服装・頭髪指導を行うなど、生徒の規範意識の向上をめざしている。」の項目について、「よく当てはまる（ほぼ当てはまる）」と答える教職員の割合を90%以上にする	
・令和3年度の学校生活アンケートにおける「登校指導に少しでも参加するよう努力している。」の項目について、「よく当てはまる（ほぼ当てはまる）」と答える教職員の割合を90%以上にする。	
・令和3年度の学校生活アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を95%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
・令和3年度後期学校生活アンケート結果では「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合が令和2年度後期と同値の97%であった。年度目標の95%についても2ポイント上回っている。	
【取組内容】について	
・令和3年度後期学校生活アンケート結果では「教職員は共通理解を図り、きまりを守り、節度ある生活態度を身につけさせる生徒指導を行っている。」の項目について、「よく当てはまる（ほぼ当てはまる）」と答える教職員の割合が令和2年度後期の90%より（+10）となり100%となった。年度目標の90%以上については10ポイント上回っている。	
・「あいさつ指導や服装・頭髪指導を行うなど、生徒の規範意識の向上を目指している。」の項目について、「よく当てはまる（ほぼ当てはまる）」と答える教職員の割合が令和2年度後期の97%より（+3）となり100%となった。年度目標の90%以上については10ポイント上回っている。	
・「登校指導に少しでも参加するよう努力している。」の項目について、「よく当てはまる（ほぼ当てはまる）」と答える教職員の割合が令和2年度後期の97%より（-1）となり96%となった。年度目標の90%については6ポイント上回っている。	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
・令和3年度の学校生活アンケートにおける「教職員は共通理解を図り、きまりを守り、節度ある生活態度を身につけさせる生徒指導を行っている。」の項目、「挨拶指導や服装・頭髪指導を行うなど、生徒の規範意識の向上をめざしている。」の項目ともに、「よく当てはまる（ほぼ当てはまる）」と答える教職員の割合を100%となった。来年度もこの状態を維持する	

ため、全体で共通理解を図っていきたい。	
取組内容③【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】（市－1・3 学－5）	B
・日常の生徒観察と定期的に実態把握アンケートを実施し、いじめの早期発見に努める。	
・アンケートを形骸化させないことを心がけ、アンケート結果は全校集会等で生徒に公表し、生徒が相談しやすい環境の構築を図る。	
・道徳教育を通じて内面的な指導を積極的に行う。	
指標	
・教育相談を年2回以上実施する。	
・東中学校「いじめアンケート」に基づく道徳教育を実施する。	
・令和3年度の学校生活アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」の項目について、「そう思う（ややそう思う）」と答える生徒の割合を100%にする。	
・令和3年度の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる。」の項目について、「そう思う（ややそう思う）」と答える生徒の割合を95%以上にする。	
・令和3年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。	
・令和3年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
・令和3年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にするについては、今年度も100%を達成することを意識して取り組みを継続している。	
・令和3年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童（生徒）数を前年度より減少させるについても、この項目に該当する事象は発生していない。	
【取組内容】について	
・令和3年度後期学校生活アンケート結果では、「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合が令和2年度後期の95%と同値となった。年度目標の90%については5ポイント上回っている。	
・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」の項目について、「そう思う（ややそう思う）」と答える生徒の割合が令和2年度後期の97%と同値となった。年度目標の100%には3ポイント下回った。	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
・今年度も「いじめについて考える日」を実施することができた。今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため生徒会の取り組みはなかったが、今後も生徒が主体的にいじめについて考え行動する取り組みを展開したい。	
・本校は「いじめ事案を予防する環境づくり」については充実した取り組みを実践できていると感じる。未だに「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」に対して肯定的な回答をする生徒が100%にはなっていないが、取り組みの成果を感じることはできるようになった。その成果を大切に、今後も教育活動にあたりたい。本年度は教育相談の中でいじめを担当や学年の先生に打ち明け、認知する場合が多かった。教育相談については、更なる充実に	

努めたい。		
取組内容④【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】(学-2) ・所轄警察署よる交通安全教室を年1回以上実施する。 ・全国的に年2回実施される「春・秋の交通安全週間」の前後、または各学期末に全校集会等で交通安全についての講話を行い、交通安全や交通ルールを順守する態度を養う。	A	
指標 ・令和3年度の学校生活アンケートにおける「交通ルールを守ったり外出の仕方を考えたりするなど、犯罪や事故などに巻き込まれないよう安全を意識して生活している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を75%以上にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】について ・1学期終業式に東警察署より講師を招き交通安全・防犯教室を実施した。 ・全校集会では、生徒指導主事より校区内での交通事故などについて講話がなされている。また定期的に校区内巡視を実施するなど日常的に交通安全の確保に努めている。 ・長期休暇明けには「長期休暇を振り返ろう」という被害調査を実施し、生徒の学校外での生活についても把握に努めている。		
【取組内容】について ・令和3年度後期学校生活アンケート結果では「交通ルールを守ったり外出の仕方を考えたりするなど、犯罪や事故などに巻き込まれないよう安全を意識して生活している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合が令和2年度後期の95%から(-1)となり94%となった。年度目標75%については19ポイント上回っている。		
次年度への改善点		
【目標設定】について ・令和3年後期学校生活アンケート結果では、目標を大きく上回っているが、交通事故や犯罪、事故は予測が不可能であるため継続的に講話などを通して、生徒たちに交通ルールやマナーを順守する意識をさせ未然防止を図る必要がある。今後も全校集会での講話、定期的な巡視、リーフレットの配布などの啓発活動に努めたい。		
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (健康教育部)		進捗状況
取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】(学-3) 防災に関する知識を深め、予防意識を高める。	B	
指標 ・令和3年度の学校生活アンケートにおける「災害に対して意識的に備えている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を75%以上にする。 ・避難訓練を年2回実施する。1年生では防災に関する資料等を使い、災害に対して備える意識を生徒に持たせる。 ・火災に伴う避難訓練では、点呼終了までにかかる時間を、5分30秒以内におさめる。 ・地震に伴う避難訓練では、点呼終了までにかかる時間を、グラウンドへの避難は6分30秒以内、階上への避難は5分10秒以内におさめる。		

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について ・アンケートの結果は、昨年度より＋1ポイントの78%で目標値に達した。	
【取組内容】について ・2回目の避難訓練も、新型コロナ対策を取りながら消防署の立ち合いのもと実施した。時間は5分46秒であった。	
次年度への改善点	
【目標設定】について ・来年度検討事項として来年度の実施や来年度以降の実施において、例年通りに整列して避難するのか整列せずに避難するのか、集合・点呼の方法、避難訓練を実施するのを教科の授業時間にするなどを見直し・検討していきたい。	
取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】(市-2) 日常の清掃活動を充実させ、自ら進んで校内美化に取り組む態度を養う。	A
指標 ・月1回美化点検を行い、取り組んだ結果を美化委員に確認させる。 ・学期に1回清掃用具点検活動を美化委員を中心に行う。 ・令和3年度の学校生活アンケートにおける「美化活動(清掃活動)に、積極的に取り組んでいる。」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。 ・令和3年度の学校生活アンケートにおける「清掃活動は行き届いている」の項目について、肯定的に答える教職員の割合を、80%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について ・生徒アンケートの結果は昨年度より－4ポイントの90%で、教職員のアンケート結果は、昨年度と同じ97%である。どちらも目標値を上回ることができた。	
【取組内容】について ・美化委員会では、例年通り美化点検を毎月行った。今年度は、新たに普通教室の破損点検に取り組んだ。	
次年度への改善点	
【目標設定】について ・美化委員会で今年度取り組んだ普通教室の破損点検を、来年度はさらに内容を充実し、また特別教室の実施も計画していきたい。また来年度新校舎完成後は、新しく清掃分担が増えることが考えられ美化委員会の活動内容も検討・準備していかないとけない。	
取組内容③【施策2 道徳心・社会性の育成】(学-13) 性教育の系統立てた指導を実施する。	B
指標 ・性について考え、自己の生き方を考える意識の向上をめざすために、各学年3～4時間の授業を実施する。 ・取組後の事後アンケートにおける「性教育で大切なことを学んだと思う。」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を90%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	

<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートの結果は、昨年度より＋1ポイントの93%で目標値を上回った。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生は、ティーンズヘルスセミナーを3学期に新型コロナ対策を取りながら実施した。 3年生は、保健体育科の授業で実施した。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 来年度も学年の状況に合わせての性教育を進めていく。また、前年度の内容を元に指導案を作成する時についても、資料・アンケートなど内容を確認・検討して活用していく。 	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（人権道德委員会）	進捗状況
<p>取組内容①【施策2 道德心・社会性の育成】（学—1 学—5）</p> <p>道德の年間指導計画を作成し、授業時数の確保に努める。また、各学年で道德の実践記録を作成し、生徒の課題に応じて適切に授業内容を充実させる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 道德の授業時数が、年間で35時間を越えるように計画し、実践する。 各学年で道德教科書の読み物教材を漏れなく行い、ワークシート・道德ノートを使用し、適切な文章表記による評価を行う。 令和3年度の学校生活アンケートにおける「道德教育は、年間指導計画に基づき、継続的に行っている。」と答える教職員の割合を95%以上にする。 令和3年度の学校生活アンケートにおける「命の大切さや社会のルールについて学んでいる。」と答える生徒の割合を95%以上にする。 令和3年度の学校生活アンケートにおける「より良い人間関係を築くために努力している。」と答える生徒の割合を95%以上にする。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校生活アンケートにおける「より良い人間関係を築くために努力している。」と答える生徒の割合は94%であった。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症感染拡大に関わるオンライン学習で各学年道德授業を行うなど、当初の年間計画からは変更があるが、各学年で道德の授業時数が年間35時間を越えるように修正・計画しながら実践を行っている。 学校生活アンケートにおける「道德教育は、年間指導計画に基づき、継続的に行っている。」と答える教職員の割合は100%であった。 学校生活アンケートにおける「命の大切さや社会のルールについて学んでいる。」と答える生徒の割合は96%であった。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「より良い人間関係を築くために努力している。」と答える生徒の割合が指標を1ポイント下回った。来年度はより丁寧に道德実践を行う必要があると考えられる。 	
<p>取組内容②【施策2 道德心・社会性の育成】（学—1 学—5）</p> <p>豊かな人権感覚の育成をめざし、人権学習の指導計画を作成する。前後期に集中実践を行い、授業展開を工夫して内容の充実を図る。</p>	A

指標	
<ul style="list-style-type: none">・人権学習の年間指導計画を作成し、前後期に各学年で2回集中実践を行う。・体験学習や外部講師の招聘、視聴覚教材の活用等を行う。・令和3年度の学校生活アンケートにおいて「人権教育の推進に努め、生徒が命の尊さや社会のルールについて学ぶ教育活動を推進している。」と答える教職員の割合を95%以上にする。・令和3年度の学校生活アンケートにおいて「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる。」と答える生徒の割合を95%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none">・学校生活アンケートにおいて「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる。」と答える生徒の割合は95%であった。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none">・前期の集中実践として昨年度に引き続き、平和学習を変更して新型コロナウイルス感染症に関わる差別・いじめの人権学習を行い、中央区人権教育実践交流会で報告した。・後期の集中実践として1年生の障がい者学習では、外部講師を招聘して中央区中学生対象手話講習会を開催した。2年生の国際理解教育と3年生の障がい者学習では、視聴覚教材を活用した。・学校生活アンケートにおいて「人権教育の推進に努め、生徒が命の尊さや社会のルールについて学ぶ教育活動を推進している。」と答える教職員の割合は100%であった。	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none">・それぞれの指標を達成することができた。2年間に亘って新型コロナウイルス感染症に関わる差別・いじめの人権学習を前期集中実践に行ってきたが、来年度以降は平和学習やLGBTQなど、新たな人権学習に取り組んでいきたい。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（特別支援教育委員会）	進捗状況
取組内容①【施策2 道徳心・社会性の育成】（学一11） 「個別の教育支援計画」の作成にあたっては、保護者との面談を行い、個々の障がいの状態等を踏まえたうえで計画を立てる。また、合理的配慮の観点から、特別支援学級に在籍する生徒の困っていることや、求めていることを知り、支援する。	B
指標 <ul style="list-style-type: none">・学期に1回、保護者及び関係諸機関等と連携し、必要に応じて加筆・修正する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none">・「個別の教育支援計画」の作成にあたっては、小学校からの引継ぎや中学校生活の様子をもとに、計画を立て、1学期末の懇談時に保護者へ渡した。修正点があれば、随時修正した。計画に基づき、支援を行っている。	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none">・家庭と学校が協力して生徒の支援を進めるため、今後も日々の学校生活や学校行事での生徒の様子を保護者に伝えていく。また、保護者の思いや願いも「個別の教育支援計画」に反映できるように、家庭との連携を行っていく。	

取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】(学-11)		B
「個別の指導計画」について、学期ごとに目標を定め、生徒の自立に向けて支援する。		
指標		
・学期に1回、保護者と目標の達成状況を共有する。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【取組内容】について		
・学期ごとに短期目標の達成状況を本人、保護者と確認した。達成状況をもとに短期目標を立て、支援することができた。		
次年度への改善点		
【目標設定】について		
・目標の達成状況や本人、保護者との話し合いを「個別の指導計画」に反映させ、今後の支援に役立てていく。		
取組内容③【施策2 道徳心・社会性の育成】(学-11)		A
特別支援教育委員会において、通常学級担任・特別支援学級担任や教務主任・生徒指導主事も含めて生徒の情報を共有する。		
指標		
・2か月に1回、特別支援教育委員会を実施し、生徒の状況について情報を交換する。		
・令和3年度の学校生活アンケートにおける「特別支援学級に在籍する生徒について、通常学級の一員として他の生徒と共に活動できるよう配慮している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を100%にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】について		
・令和3年度の学校生活アンケートにおける「特別支援学級に在籍する生徒について、通常学級の一員として他の生徒と共に活動できるよう配慮している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合は前期97%、後期は100%であった。		
【取組内容】について		
・日頃より通常学級担任との情報共有に努めている。また、2か月に1回の特別支援教育委員会や学年会などでも、情報共有に努めている。		
次年度への改善点		
【目標設定】について		
・今後も特別支援学級在籍生徒が、学級や学年の一員として、充実した学校生活を送れるように支援していく。		
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (進路)		進捗状況
取組内容①【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】(進路 学-6)		B
3年間を見通した指導計画を立て、生徒自らが個性を伸ばし、自己実現をめざしてその生き方を考え、将来に対する目的意識をもって、主体的に進路選択ができるようにする。		
指標		
・令和3年度の学校生活アンケートにおける「進路決定に際しては、自分の気持ちを大切にして、主体的に考えている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を90%以上にする。		

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none">・「進路決定に際しては、自分の気持ちを大切に、主体的に考えている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合は、昨年度より1ポイント減少して、87%となり、目標値の90%を少し下回った。しかしながら、将来の生き方を考える土壌はできつつあるように思う。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none">・『自らの手で納得のいく進路を獲得する』ということを常に念頭に置き、進路通信や学年集会での呼びかけを中心に、情報提供をしてきた。特に、進路獲得を目の前にした3年生については、学年の先生を中心に声をかけ、「自分の進路は自分で決める」よう、何度も促してきた。本年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、生徒への進路情報が十分にいきわたらないことが懸念されたが、大きな影響はなさそうである。	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none">・1年生では「職業講話」、2年生では「職場体験」(本年度は代替の進路学習を予定している)の取り組みだけで進路指導を終えてしまうのではなく、普段からの呼び掛けや啓発活動を大切にして、継続的に『自らの手で納得のいく進路を獲得する』ことのできる進路指導を行っていきたい。	
取組内容②【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】(進路 学-4)	A
進路についての理解を深めさせるために、体験学習・学校説明会への参加案内発行や進路説明会開催などによる進路情報の提供、進路資料を活用した学級活動や進路相談を行う。	
指標	
<ul style="list-style-type: none">・令和3年度の学校生活アンケートにおける「提供された進路の情報をきちんと理解できている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。・令和3年度の学校生活アンケートにおける「教育相談や進路相談などで気軽に相談しやすい先生がいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none">・「教育相談や進路相談などで気軽に相談しやすい先生がいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合は、昨年度より1ポイント増加して81%となり、目標を達成した。新型コロナウイルス感染症の影響により、生徒との相談活動が十分でないことで、前期は目標値を下回ったが、その後の教職員の普段からの声掛けや生徒の話を聞く姿勢が大きく評価された結果だと思われる。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none">・「提供された進路の情報をきちんと理解できている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合は、昨年度より6ポイント増加して82%となったが、目標値の80%を上回った。進路通信の発行や学年集会での呼び掛けによる情報提供をこまめに行ってきた。また、体験授業や学校説明会への参加については、大量に送られてくる案内のほとんどを生徒に提示して、参加を呼び掛け、それを促してきた。1・2年生が参加しても良いものについても、1・2年生に呼び掛けてきた。	

次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none">各高等学校等で行われる進路説明会等を活用して、進路情報の収集及び整理をさらに図っていきたい。そして、進路指導委員会を中心に情報の共有と組織的な解析を進めながら、全教職員が共通理解を図り、生徒・保護者に対してきめ細やかな進路指導を行えるようにしていきたい。特に、大阪府公立高校入学者選抜方法の変更に伴い、1年生での取り組みを強化していきたい。	
<p>取組内容③【施策2 道徳心・社会性の育成】(進路 学-6)</p> <p>1年生での「職業講話」、2年生での「職場体験」、3年生での「プレハイスクールセミナー(出前授業)」という系統的なキャリア教育を通じて、将来の進路や生き方について考えさせ、社会の一員としての在り方や興味・関心に基づく勤労観・職業観を育成する。</p>	C
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none">令和3年度の学校生活アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を95%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none">「将来の進路や生き方について考えたことがある」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合は、昨年度より2ポイント増加して、90%となったが、目標値の95%を下回った。しかしながら、3年生に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響により、進路決定への動きの鈍ることが懸念されたが、2学期に入ってから希望の進路先への質問をしてくる等、少しずつ進路決定への興味関心が高まっていき、94%を記録した。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none">3年生の「プレハイスクールセミナー(出前授業)」は予定通り7月に実施ができ、それぞれの進路先を決定していく上での指標となる貴重な体験となった。1年生での「職業講話」は2月に実施予定である。2年生での「職場体験」は、残念ながら新型コロナウイルス感染症の影響により、中止となった。	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none">1年生の割合については、学年での進路の取り組み(職業講話)がまだ行われていないこともあり、84%にとどまっている。将来の進路や生き方について興味を持たせることができるような職業講話にしていきたい。2年生については93%で、3月に進路指導主事講話を含む進路学習を予定している。3年生については、これから本格化する進路相談・進路懇談について、学年間の連携を密にし、その中身を充実させることで、将来の進路や生き方を十分に考えさせていきたい。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (第1学年)	進捗状況
<p>取組内容①【施策2 道徳心・社会性の育成】(市-2)</p> <p>集団生活における基本的な生活習慣を身につけ、ルールを守り、正しい判断と行動ができる態度を育成する。</p>	B

指標		
・令和３年度の学校生活アンケートにおいて、「学校の決まり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 95%以上にする。		
・令和３年度の学校生活アンケートにおいて、「あいさつなどを積極的に行っている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 90%以上にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】について		
・令和３年度末の学校生活アンケートにおいて、「学校の決まり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合は 94%で、年度目標及び取り組み内容の指標を下回っている。		
【取組内容】について		
・令和３年度末の学校生活アンケートにおいて、「あいさつなどを積極的に行っている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合は 94%で、目標を上回っている。		
次年度への改善点		
【目標設定】について		
・あいさつについては、どんな場面でも元気よくおおきな声であいさつが」できるよう、集団活動・班活動・行事を通して精神面の成長を図る。		
取組内容②【施策２ 道徳心・社会性の育成】(市-1 学-55)		B
中学校の一員としての自覚を持たせ、互いの個性を尊重し、信頼しあえる人間関係を育成する。		
指標		
・令和３年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。		
・令和３年度の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 95%以上にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】【取組内容】について		
・令和３年度末の校内調査では、いじめ事象が 1 件あったが、解消した。		
・令和３年度末の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合は 96%で、目標を上回った。		
次年度への改善点		
【目標設定】について		
・さらに高いレベルの集団行動、道徳の授業・班活動をとおして、相互理解を深める取り組みを進めていきたい。		
取組内容③【施策２ 道徳心・社会性の育成】(学-1)		B
道徳授業や学年集会・班活動・係活動・委員会活動を通じ、前向きな生活態度・学習態度を育成する。		

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度の学校生活アンケートにおいて「より良い人間関係を築くために努力している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を95%以上にする。 令和3年度の学校生活アンケートにおいて「自分が所属する集団における自分の役割を理解し、それを果たすことで集団に貢献している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度末の学校生活アンケートにおいて「より良い人間関係を築くために努力している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合は94%で1%目標を下回った。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度末の学校生活アンケートにおいて「自分が所属する集団における自分の役割を理解し、それを果たすことで集団に貢献している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合は93%で目標を上回った。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 2年生も引き続き、委員会活動・班活動を軸に日常生活の中で、自主的に行動できる集団作りを目標に個々の意識を高め、学校生活に前向きに取り組む姿勢を育んでいきたい。 	
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (第2学年)</p>	進捗状況
<p>取組内容①【施策2 道徳心・社会性の育成】(市-2)</p> <p>集団生活における基本的な生活習慣を身につけ、ルールを守り、正しい判断と行動ができる態度を育成する。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度の学校生活アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を95%以上にする。 令和3年度の学校生活アンケートにおける「あいさつなどを積極的に行っている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を90%以上にする。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度の前期学校生活アンケートにおいて、「学校の決まり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と答える生徒の割合は前期97%、後期99%で、年度目標及び取り組み内容の指標を後期は4ポイント上回っている。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度の前期学校生活アンケートにおいて、「あいさつなどを積極的に行っている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と答える生徒の割合は前期96%、後期98%で、取り組み内容の指標を後期は8ポイント上回っている。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年よりも時間やルールを守る意識は高くなってきているので、継続指導をしていく。現状に 	

満足せず、来年度に向け更に高いところをめざしていきたい。	
取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】((市-1 学-1) 中学校の一員としての自覚を持たせ、互いの個性を尊重し、信頼しあえる人間関係を育成する。	B
指標 ・令和3年度の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 ・令和3年度の学校生活アンケートにおいて、「より良い人間関係を築くために努力をしている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を95%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】・【取組内容】について ・令和3年度の前期の校内調査において、いじめ事象は3件あった。発覚次第指導・家庭連絡等を行っている。現在も継続指導中である。 ・令和3年度の前期学校生活アンケートにおいて、「より良い人間関係を築くために努力をしている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合は前期94%、後期95%で、年度目標及び取り組み内容の指標を後期は達成できた。	
次年度への改善点	
【目標設定】について ・学年目標である<「十人十色」一人ひとりがメインカラー>という他を認め、他と協力する気持ちや行動をさらに向上させられるように、日常生活はもちろん、学校行事、委員会活動や部活動のなかでも育んでいきたい。	
取組内容③【施策2 道徳心・社会性の育成】(学-6) 一人ひとりが目標を持ち、すべての授業・班活動・係活動・委員会活動・学年集会を通じ、前向きな生活態度・学習態度を育成する。	B
指標 ・令和3年度の学校生活アンケートにおいて「将来の進路や生き方について考えたことがある」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を85%以上にする。 ・令和3年度の学校生活アンケートにおいて「自ら学ぶように努力している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】・【取組内容】について ・令和3年度の学校生活アンケートにおいて、「将来の進路や生き方について考えたことがある」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合は前期84%、後期93%で、年度目標及び取り組み内容の指標を後期は8ポイント上回っている。 ・令和3年度の学校生活アンケートにおいて、「自ら学ぶように努力している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合は前期88%、後期80%で、年度目標及び取り組み内容の指標を前期・後期ともに達成できた。	
次年度への改善点	
【目標設定】について ・来年度の進路選択に向けて、授業や進路学習などの取り組みを通して、将来のことを考える機会をさらに提供し、自ら進路を選択し、学ぶ意欲を向上させたい。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（第3学年）		進捗状況
<div>取組内容①【施策2 道徳心・社会性の育成】（市-1 学-5）</div> <div>道徳授業、学年集会、日々の学活等の様々な体験学習を通じ、素直な気持ちを育むと共に、他を思いやる心を育てる。</div> <div>指標</div> <div><ul style="list-style-type: none">令和3年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。令和3年度の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を95%以上にする。</div>		B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<div>【年度目標】について</div> <div><ul style="list-style-type: none">令和3年度の後期の校内調査においていじめ事象は2件あった。発覚次第指導・家庭連絡を行い、現在も継続観察指導中である。</div> <div>【取組内容】について</div> <div><ul style="list-style-type: none">令和3年度の後期学校生活アンケートにおいて、「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合は95%で、年度目標及び取り組み内容の指標どおりであった。道徳授業・班活動・委員会活動や集会・行事を通して、周囲の事を考えて行動できる素直な心を持てるようになった。個々の成長も見られ、集団としての質も向上した。</div>		
次年度への改善点		
<ul style="list-style-type: none">最後の行事である卒業式まで、更なる改善を意識しながら注意深く見ていきたい。		
<div>取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】（市-2）</div> <div>ルールや時間を守り、元気よくあいさつのできる前向きな生活態度を持つ集団を育成する。</div> <div>指標</div> <div><ul style="list-style-type: none">令和3年度の学校生活アンケートにおいて、「学校の決まり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を95%以上にする。令和3年度の学校生活アンケートにおいて、「あいさつなどを積極的に行っている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を92%以上にする。</div>		B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<div>【年度目標】について</div> <div><ul style="list-style-type: none">令和3年度の後期学校生活アンケートにおいて、「学校の決まり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる・（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合は98%で年度目標及び取り組み内容の指標を3ポイント上回っている。特に進路を控える後期では、正しい服装や時間を守ることの大切さを意識するよう常に話してきた成果と考える。</div> <div>【取組内容】について</div> <div><ul style="list-style-type: none">令和3年度の後期学校生活アンケートにおいて、「あいさつなどを積極的に行っている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合は94%で、年度目標及び取り組み内容の指標を2ポイント上回っている。</div>		

次年度への改善点	
【目標設定】について ・時間の意識は高い水準で3年間継続して過ごすことができた。修学旅行では急な時間変更にも対応できた。	
取組内容③【施策2 道徳心・社会性の育成】(学-5) 班活動・委員会活動などを通じ、よりよい人間関係を築き、自主的・実践的な態度を育成する。	B
指標 ・令和3年度の学校生活アンケートにおいて「より良い人間関係を築くために努力している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を95%以上にする。 ・令和3年度の学校生活アンケートにおいて「自分が所属する集団における自分の役割を理解し、それを果たすことで集団に貢献している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を90%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について ・令和3年度の後期学校生活アンケートにおいて、「より良い人間関係を築くために努力している」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合は93%で、年度目標及び取り組み内容の指標を2ポイント下回った。 【取組内容】について ・令和3年度の後期学校生活アンケートにおいて、「自分が所属する集団における自分の役割を理解し、それを果たすことで集団に貢献している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合は90%で、年度目標及び取り組み内容の指標どおりであった。修学旅行では短い準備期間にも関わらず、自分の役割を確実に果たすことができ、自主的な行動も多く見えた。	
次年度への改善点	
・卒業に向けてそれぞれが自分の役割を果たし、34期生全員で協力しながら日々の生活を大事にし、今後の進路先でも活躍できるよう指導していく。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (校長経営戦略支援予算基本)	
取組内容①【施策2 道徳心・社会性の育成】(学-12) 華道や茶道についての体験学習を通じて、歴史的建造物や史跡の多い校区における伝統文化とその良さを知り、将来の地域人材として意識付けをするとともに伝統を守ることの重要性を認識させる。	B
指標 ・地域やPTAの方々をゲストティーチャーとして招き、華道体験及び茶道体験を実施する。また、国語の和歌や俳句・川柳などに係る授業、音楽での和楽器の演奏や鑑賞、美術での鑑賞などで、日本や地域の伝統文化について考える授業実践を行う。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について ・2学期の取組後に実施した後期学校生活アンケートにおいて、「鑑賞行事や体験学習を通じて、芸術や伝統文化のすばらしさや大切さを感じることができた」の項目について、肯定的に答える生徒の割合は89%となり、目標を達成することができた。	

【取組内容】について	
・今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のためゲストティーチャーを招いての華道・茶道体験は中止とした。しかしながら、地域ボランティアの方々による玄関ホールへの「生け花」を毎週展示いただくことで、日々、日本の伝統文化に触れる機会を得ている。また、その「生け花」を「東中百景」として学校ホームページへ掲載している。今後は、音楽科での箏曲や音楽鑑賞などの取組、美術科での墨絵の制作なども予定しており、日本や地域の伝統文化に触れる取組を継続する。	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
・体験学習については生徒による主体的な取組とするため、事前・事後の学習について更なる充実を図る。また、コロナ禍において、日本や地域の伝統文化について考える授業等の機会をどのように確保するのか検討していく。	
取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】(学-12)	B
文化発表会の芸術鑑賞において古典芸能を実施し、表現の豊かさや美しさ、すばらしさを感じとることで感性や情操を高める。	
指標	
・令和3年度の学校生活アンケートにおける「鑑賞行事や体験学習を通じて、芸術や伝統文化のすばらしさや大切さを感じることができた」の質問に対して、肯定的に答える生徒の割合を80%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
・後期学校生活アンケートにおける「鑑賞行事や体験学習を通じて、芸術や伝統文化のすばらしさや大切さを感じることができた」の項目について、肯定的に答える生徒の割合は89%であり、目標を達成することができた。	
【取組内容】について	
・コロナ禍のため、本年度は芸術鑑賞会を文化発表会のスケジュール内に組み込んで実施した。夏季休業中に生徒会が校区内の2ヶ所の能楽堂を見学し、インタビューに答えていただいたものを動画編集し、文化発表会において各教室で鑑賞した。地域の伝統芸能に触れ、表現の豊かさや素晴らしさを感じることができた機会を確保することができた。	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
・本年度・昨年度のDVDなどの動画を用いた芸術鑑賞会のあり方については、コロナ禍、また、今後の生徒数増に伴う本校の課題を改善できる一つの実践方法となった。芸術鑑賞については事後の効果検証を着実にを行い、次年度以降の実施の有無や実施内容の選定に活用する。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (管理職)	進捗状況
取組内容①【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】(管理職 学-8)	B
各種行事やPTA活動等を通じて開かれた学校づくりを推進し、学校・家庭・地域が相互に協力する体制を構築する。	
指標	
・令和3年度の学校生活アンケートにおける「参観等の各種行事やPTA活動などを通じて、学校教育活動に参加しようとしている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える保護者の割合を70%以上にする。また、令和3年	

<p>度の学校生活アンケートにおける「学校行事や PTA 活動、部活動等の場面で、保護者や地域に関わる取組を行っている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえ ば、当てはまる)」と答える教職員の割合を 85%以上にする。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【年度目標】【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後期学校生活アンケートにおける「参観等の各種行事や PTA 活動などを通じて、学校教育活動に参加しようとしている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合は 83%であり、昨年度後期を 3 ポイント上回った。コロナ禍で 12 月分散参観は行ったものの各種行事は行えず、PTA 活動にも制限がある状況にもかかわらず、保護者の学校教育活動への関心は高い。 ・また、後期学校生活アンケートにおける「学校行事や PTA 活動、部活動等の場面で、保護者や地域に関わる取組を行っている」の項目について、肯定的に答える教職員の割合は 100%であった。コロナ禍において、保護者の方に学校の教育活動を直に見学いただく機会が少ないが故に、あらゆる機会を活かして保護者・地域と関わろうとする教員の姿勢が、結果として保護者の学校教育活動への関わりにつながっていると考えられる。 	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記アンケート結果の通り、すべての教職員が保護者・地域との関わりを大切にする姿勢により、学校・家庭・地域の協力体制が築かれている。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校行事や PTA 活動に制限がある状況下ではあったが、保護者メールや学校ホームページ、各種通信等による情報発信に取り組んだ。 ・また、今般の状況の中で工夫しながら、体育大会における PTA による「YouTube ライブ」を活用したライブ配信・録画配信などに取り組んだ。さらに合唱コンクールも保護者に鑑賞していただくことはできなかったが、12 月の懇談時に録画映像を放映したところ、保護者が足を止めて視聴いただくことができた。 ・文化発表会や 12 月保護者分散参観では、PTA による受付等体制の協力を得ることで、教員が生徒の教育活動に専念でき、また保護者の分散参観を三密を回避し安全に実施することができた。今後は、段階的に開かれた学校づくりを推進し、学校・家庭・地域による、より強固な協力体制の構築をさらに進めていきたい。 	

大阪市立東中学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ol style="list-style-type: none"> 令和3年度の中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度（3年1.14、2年1.16）より向上させる。 令和3年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。 令和3年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。 令和3年度の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度（92%）より増加させる。 令和3年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である50m走と立ち幅とびの平均の記録を、平成28年度より50m走(男子8.17・女子9.01)は0.1ポイント、立ち幅とび(男子192.36・女子169.61)を3ポイント向上させる。 <p>学校園の年度目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 令和3年度の学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授業はわかりやすい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を90%以上にする。 令和3年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える教職員の割合を95%以上にする。 令和3年度の学校生活アンケートにおける「調べ学習や資料提示等を通じて、学校図書館を活用した授業づくりを進めている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える教職員の割合を70%以上にする。 令和3年度の学校生活アンケートにおける「英語の授業でのアクティビティに積極的に取り組んでいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を90%以上にする。 令和3年度の学校生活アンケートにおける「学校はICT機器を活用して、授業実践に努めている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える教職員の割合を80%以上にする。 令和3年度の学校生活アンケートにおける「技術・家庭科技術分野の授業におけるプログラミング学習において、論理的に考えるための手順を学ぶことができた」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。 令和3年度の学校生活アンケートにおける「帰国・来日等の生徒や外国にルーツのある生徒が学校生活を円滑に送れるよう、日本語指導をはじめとする直接的な支援をするとともに、違いを尊重し認め合えるよう配慮しながら教育活動を進めている」の 	B

<p>項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を90%以上にする。</p> <p>8. 令和3年度の学校生活アンケートにおける「体力や運動能力向上のため、保健体育の授業や部活動等に積極的に取り組んでいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を70%以上にする。</p> <p>9. 令和3年度の学校生活アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を85%以上にする。</p> <p>10. 令和3年度の学校生活アンケートにおける「栄養バランスや食べる時間・量等を考えて食事をするように心がけている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を70%以上にする。</p>	
--	--

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (教務部)	進捗状況
<p>取組内容①【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(市-1 学-2)</p> <p>言語活動の取り組みをすべての教科で取り入れ、思考力、判断力、表現力の育成を図り、学力向上に生かす。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度の中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度(3年1.14、2年1.16)より向上させる。 令和3年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を95%以上にする。 言語活動を取り入れた授業を、すべての教科で、年1回の公開授業において行う。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年生の中学生チャレンジテストについては、5教科の対府平均比は1.08、3教科の対府平均比は1.1で、昨年度の5教科1.14、3教科1.16から、どちらも0.06ポイント下回った。2年の3教科の対府平均比は1.17で、昨年を0.01ポイント上回った。5教科の対府平均比は1.15であった。1年の3教科の対府平均比は1.13であった。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合は100%で目標を達成した。 コロナ禍で時期が少しずれたものの、例年通り公開授業週間も10月に実施することができた。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 次年度も思考力・判断力・表現力の育成を目標に、言語活動を取り入れた公開授業を実施する。また、公開授業等の研修を生かし、今後も授業改善に努めチャレンジテストの結果につなげていく。 	

取組内容②【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】（市-2・3） 授業の予習・復習等に活用できる家庭学習教材を單元ごとに作成、提供し、自主学習の習慣を定着させる。自ら学ぶ態度を養い、学力の向上を図る。		B
指標 ・家庭学習教材を授業ごとに提供する。 ・令和3年度の学校生活アンケートにおいて「自ら学ぶよう努力している」と答える生徒の割合を昨年度と同等以上にする。 ・令和3年度の学校生活アンケートにおける「自ら学ぶ方法や習慣を身につけさせる学習指導や家庭学習の習慣づけを行うために、保護者に対して様々な働きかけをしている」と答える教職員の割合を昨年度と同等以上にする。 ・令和3年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。 ・令和3年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 【年度目標】について ・3年生の中学生チャレンジテストについて、得点が府平均の7割に満たない生徒の割合は14.2%で、昨年度2年生時の13.6%から0.6ポイント増加した。 ・3年生の中学生チャレンジテストについて、得点が府平均の2割以上上回る生徒の割合は41.0%で、昨年度2年生時の44.0%から3.0ポイント減少した。 ・2年生の中学生チャレンジテストについて、3教科の得点が府平均の7割に満たない生徒の割合は9.7%で、昨年度1年生時の8.6%から1.1ポイント増加した。 ・2年生の中学生チャレンジテストについて、3教科の得点が府平均の2割以上上回る生徒の割合は52.4%で、昨年度1年生時の50.8%から1.6ポイント減少した。 ・1年生の中学生チャレンジテストについて、3教科の得点が府平均の7割に満たない生徒の割合は10.1%で、3教科の得点が府平均の2割以上上回る生徒の割合は43.3%であった。 【取組内容】について ・令和3年度の学校生活アンケートにおける「自ら学ぶ方法や習慣を身につけさせる学習指導や家庭学習の習慣づけを行うために、保護者に対して様々な働きかけをしている」と答える教職員の割合は100%となり、目標を達成した。今後の教育課程を見据えたICT機器の利用として、teamsを使つての課題提出など、オンラインでのやり取りが増加している。しかし、令和3年度の学校生活アンケートにおいて「自ら学ぶよう努力している」と答える生徒の割合は、昨年度よりも5ポイント低い81%であった。		
次年度への改善点 【目標設定】について ・チャレンジテストに向けて、今後も予習・復習に活用できるような家庭学習教材の提供や、自主的学習を促すような授業・教材をより工夫し、提供する。また、ICT機器を利用した家庭学習なども提供していけるようにする。		
取組内容③【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】（市-2・3） 教科の年間指導計画及びシラバスを作成し実践する。また、「シラバス・通知表の見方」を用いて、評価についての保護者向けの説明会を実施する。		
指標 ・令和3年度の学校生活アンケートにおいて「教科の年間指導計画や指導案を作成し、実践するとともに、教材を工夫し、授業改善を行っている」と答える教職員の割合を		B

<p>昨年度と同等以上にする。また、絶対評価について、シラバスをもとに保護者集会を開き、説明を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和３年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の７割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より２ポイント減少させる。 令和３年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を２割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より２ポイント増加させる。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ３年生の中学生チャレンジテストについて、得点が府平均の７割に満たない生徒の割合は１４．２％で、昨年度２年生時の１３．６％から０．６ポイント増加した。 ３年生の中学生チャレンジテストについて、得点が府平均の２割以上上回る生徒の割合は４１．０％で、昨年度２年生時の４４．０％から３．０ポイント減少した。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ６月にはシラバスの配布を行ったが、新型コロナウイルス感染症の対策のため保護者集会を実施することができず、保護者に対して詳しい説明はできなかった。教科指導においては、短縮授業等があったが、それぞれ指導計画を見直し、ICT機器の利用を含めて授業の工夫改善を行ってきた。令和３年度の学校生活アンケートにおいて「教科の年間指導計画や指導案を作成し、実践するとともに、教材を工夫し、授業改善を行っている」と答える教職員の割合は１００％で目標を達成した。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> さらに、授業や懇談、集会等で、学習内容・学習方法・評価方法等を保護者や生徒に理解してもらえるよう努める。次年度以降のコロナ感染症対策として、保護者集会ができなかった時はオンラインでの配信も行えるよう、準備を整えていく。 	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（国語科）	進捗状況
<p>取組内容①【施策５ 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】（市－１）</p> <p>国語を適切に表現し、自主的、意欲的に理解を深められるような、授業内容の創造と教材づくりを行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和３年度の中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度（３年１．１５、２年１．０９）より向上させる。 	－
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和３年度の中学３年生チャレンジテストにおける対府平均比は１．０５となった。２年生チャレンジテストにおける府平均比は１．１１となった。また１年生の対府平均比は１．１１であった。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍のため、制限もあったが言語活動を工夫して授業づくりを行った。書くことについては、書き方の基本を定着させるため、解答の書き方を徹底させた。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> チャレンジテストに向けて、基礎基本の定着と記述力を高める教材や授業づくりを工夫していく。そうすることで、自分の考えを自信をもって書くことにつなげたい。 	

取組内容②【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(市-2 学-1・2)	B
計画的に習熟度別授業を実施することにより、「個に応じた教育」を進め、学力向上へとつなげる。	
指標	
・令和3年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度（3年 8.9、2年 10.3）より2ポイント減少させる。	
・令和3年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える教職員の割合を95%以上にする。	
・令和3年度の学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授業はわかりやすい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童(生徒)の割合を90%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
・令和3年度の中学生チャレンジテストにおける府平均の7割に満たない生徒の割合は、3年生は12.4%、2年生は11.6%であった。また、1年生は8.2%であった。	
・令和3年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える教職員の割合は100%となり、目標を5ポイント上回った。	
・令和3年度の学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授業はわかりやすい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童(生徒)の割合は89%となり1ポイント下回った。	
【取組内容】について	
・チャレンジテスト前や実力テスト前などを中心に習熟度別授業を計画的に実施した。	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
・書く力をつけるために必要な教材づくりを工夫して行う。	
・新設された部屋を活用し、少人数授業の在り方を工夫していく。	
取組内容③【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(市-3・4 学-2・3)	B
国語を学ぶ上で基礎基本となる語彙力を高め、言語を通した思考力を育成する。	
指標	
・漢字能力検定試験を、希望者を対象に年に2回以上、校内で実施する。漢字学習の動機づけとするとともに、中学校配当漢字を網羅した漢字能力検定への取組を通じて、語彙力を向上させる。また、受検の有無に関わらず、語彙力を向上させ、「漢字を文や文章の中で使うことのできる力」を身につけさせる。	
・自分の考えを言語で表現できる授業展開を工夫し、学校生活アンケートで「授業終了まで授業に集中していた」と答える生徒の割合について、昨年度と同等以上（90%）にする。	
・令和3年度の学校生活アンケートにおける「調べ学習や資料提示等を通じて、学校図書館を活用した授業づくりを進めている」の項目について、「当てはまる（どちらかと	

<p>例えば、当てはまる)」と答える教職員の割合を 70%以上にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書室を利用した授業を全学年で合計 30 回以上実施する。図書室での授業を通して、資料等を活用し、自分の思考をまとめ、表現する方法を身につけさせるとともに、読書活動の推進を図る。 ・令和 3 年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を 2 割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度（3 年 51.7、2 年 37.8）より 2 ポイント増加させる。 ・令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度（92%）より増加させる。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字能力検定を 7 月 2 日（金）と 10 月 23 日（土）に行った。受験者は 150 名であった。 ・学校生活アンケートで「授業終了まで授業に集中していた」と答える生徒の割合は 89%となり、目標を 1 ポイント下回った。 ・学校生活アンケートにおける「調べ学習や資料提示等を通じて、学校図書館を活用した授業づくりを進めている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える教職員の割合は 93%となり、目標を 23 ポイント上回った。 ・図書室を利用した授業を全学年で合計 16 回実施した。 ・令和 3 年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を 2 割以上上回る生徒の割合については、3 年生で 33.1%、2 年生は 41.4%であった。また、1 年生は 42.8%であった。 ・学校生活アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合は 92%と、昨年度と同じであった。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語彙力を高めるために、プリント教材を作成したり、思考力を高める授業を工夫したりしている。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策のために、図書室の利用が制限され、また、班をはじめとした言語活動を活発に行うことが難しい状況にある。そのため、ICT を活用した授業や教材づくりをより充実させる。 	
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（社会科）</p>	進捗状況
<p>取組内容①【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】（市－1・2・3）</p> <p>単元ごとの復習プリントを活用し、授業の内容を確認させ、さらなる学習理解をはかり、基礎的・基本的な学力の向上を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 3 年度の 3 年中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、前年度（3 年 1.10）より向上させる。 ・令和 3 年度の 3 年中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、前年度（3 年 15.5）より 2 ポイント減少させる。 	B

<ul style="list-style-type: none">・令和３年度の３年中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を２割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、前年度（３年 40.9）より２ポイント増加させる。・令和３年度の学校生活アンケートにおける「授業がわかりやすい」と答える割合を昨年度と同等以上にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<p>【年度目標】について、</p> <ul style="list-style-type: none">・令和３年度の中学生チャレンジテストにおける３年の対府平均比は、1.03 で前年度（1.10）より 0.07 ポイント下がった。また、２年の対府平均比は 1.15 であった。・令和３年度の３年中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の７割に満たない３年の生徒の割合は、24.7%で前年度（15.5%）より 6.2 ポイント増加した。また、２年の割合は 10.9% であった。・令和３年度の３年中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を２割以上上回る３年の生徒の割合は、36.8%で前年度（40.9）より 4.1 ポイント減少した。また、２年の割合は 47.0% であった。・令和３年度の後期学校生活アンケートにおける「授業がわかりやすい」と答える割合は 93% で昨年度より 1 ポイント上回り目標を達成した。 <p>【取組内容】について、</p> <ul style="list-style-type: none">・今後、授業改善の工夫を行っていく。		
次年度への改善点		
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none">・引き続き基礎学力の定着をはかるよう、授業内容の改善を行っていく。		
取組内容②【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】（学－7） 国内だけでなく、国際社会に起こる社会的事象に対する興味・関心を高め、国際社会において生き抜く力を育成する。		B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none">・授業においては、社会事象に関する話題を取り上げ、また、定期テストにおいても時事問題を取り入れた設問を出題する。さらに、学校生活アンケートにおいて「社会事象に興味・関心を持つようになった」と肯定的に答える生徒の割合を 90%以上にする。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none">・学校生活アンケートにおいて「社会事象に興味・関心を持つようになった。」と肯定的に答える生徒の割合は全学年では 85%となり、目標を２ポイント下回ったが前期より 4 ポイント上昇している。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none">・今後、目標の達成に向けて取り組みを進めていく。		
次年度への改善点		
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none">・引き続き時事問題に関する話題を取り上げ、興味・関心を持つように指導していく。		
取組内容③【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】（市－4、学－2） 調べ学習や課題解決を通して自分の考えを深めたり、広げたりする学習を行い、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。		B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none">・令和３年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力の育成のため、		

言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える教職員の割合を 95%以上にする。	
・令和 3 年度の学校生活アンケートにおいて「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度（92%）より増加させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
・令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える教職員の割合を 100%と年度目標、および取組内容の指標を 5%上回っている。	
・令和 3 年度の学校生活アンケートにおいて「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合は 92%で昨年と同等である。。	
【取組内容】について	
・様新型コロナウイルス感染防止対策として、言語活動を取り入れたり、コミュニケーションを活発に取ったりすることが難しい状況であったが、授業改善や授業の工夫の結果と思われる。	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
・今後も感染防止対策を講じながら、できる限り目標を上回れるよう工夫していく。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（数学科）	進捗状況
取組内容①【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】（市－1・2・3・4） 基礎的・基本的な概念や知識の定着をめざすとともに、数学的活動を通して思考力・判断力・表現力の育成を図る。	B
指標	
・令和 3 年度の 3 年中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、前年度（3 年 1.20）より向上させる。 ・令和 3 年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度（3 年 16.1、2 年 9.7）より 2 ポイント減少させる。 ・令和 3 年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を 2 割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度（3 年 53.3、2 年 56.8）より 2 ポイント増加させる。 ・令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度（92%）より増加させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】【取組内容】について	
・3 年については、数学の対府平均比は 1.15 で、昨年の 1.20 から 0.05 ポイント減少した。2 年については、1.21 で、昨年と同等であった。1 年については、1.15 であった。	

<ul style="list-style-type: none">・3年の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合は、21.4%で、昨年度2年生時の16.1%から5.3%増加した。2年は11%で、昨年度1年生時の9.7%から1.3%増加した。1年は11.5%であった。・3年の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合は、48.4%で昨年度2年生時の53.3%から4.9%減少した。2年は59.9%で、昨年度1年生時の56.8%から3.1%増加した。1年は、47.1%であった。・令和3年度の学校生活アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合は92%で目標を達成した。	
次年度への改善点	
【目標設定】について <ul style="list-style-type: none">・全学年で主体的、対話的な学習活動を通して、生徒に足りない多面的に問題を見る力を育成し、さらに学力を向上させたい。	
取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(学-1) 計画的に習熟度別授業を実施することにより、「個に応じた教育」を進め、学力向上へとつなげる。	B
指標 <ul style="list-style-type: none">・習熟度別少人数授業を通年で計画的に実施する。・令和3年度の学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授業はわかりやすい」に対して、肯定的に答える生徒の割合を90%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について <ul style="list-style-type: none">・令和3年度の学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する生徒の割合は90%で目標を達成した。	
【取組内容】について <ul style="list-style-type: none">・習熟度別少人数授業を計画的に実施できている。	
次年度への改善点	
【目標設定】について <ul style="list-style-type: none">・習熟度別少人数授業を今後も計画通りおこなうことができた。また、今年度は学年をまたぐ授業者がおり、生徒を多面的に見て、教員同士で情報を共有することができた。来年度もさらに情報共有を密にし、学力向上を目指したい。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (理科)	進捗状況
取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(市-1) 自然現象に対して自主的、意欲的に理解を深められるような、授業内容の創造と教材づくりをおこなう。	B
指標 <ul style="list-style-type: none">・令和3年度の3年中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、前年度(3年1.11)より向上させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について <ul style="list-style-type: none">・令和3年度の3年中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較したところ、3年1.07となり、前年度を下回った。2年の対府平均比は1.09であった。	

【取組内容】について	
・主体的に学習に取り組む態度の育成をめざした活動や ICT を活用した授業をしているが、生徒が自主的に取り組む課題の提供や、主体的な態度を見とる指標の設定が不十分だったと考えられる。	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
自然現象についての主体的に取り組む態度を見とる指標については、振り返りシートやテスト反省など、テストのポイントの推移で測ることが難しい。今後、3 学年の理科で協働しながら、生徒が振り返りできる教材の作成に努めたい。	
取組内容②【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】（市-2） 演示実験やプリント教材を有効に活用し、基礎的・基本的な学力の向上を図る。	B
指標	
・令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「理科の実験・観察などの授業に興味を持って参加している。」の項目について肯定的に答える生徒の割合を 90%以上にする。 ・令和 3 年度の 3 年中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、前年度（3 年 23.1）より 2 ポイント減少させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
・学校生活アンケートにおける「理科の実験・観察などの授業に興味を持って参加している。」の項目について肯定的に答える生徒の割合は 91%で目標値を上回った。令和 3 年度の 3 年中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合は、23.5%で、前年度より増加した。2 年は 19.8%であった。	
【取組内容】について	
・コロナウイルス感染拡大防止対策下において、理科室でのグループワークができない中、教室での演示実験や ICT 機器を使った授業を行い対応した。	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
今年度も前年度に引き続き、コロナウイルス感染拡大防止下において、実験・観察の機会が減少したことに伴い、生徒の活動が制限されることが多かった。動画等で生徒にイメージさせることはできても、実際に手を動かして、失敗から学ぶ経験ができないことから、知識・技能の問題につまずく生徒が増加している。このことが、3 年生のチャレンジテストにおいても、得点に結びつかず、府平均の 7 割に満たない生徒の割合の増加の原因ではないかと考えられる。実験の手順や見通しなどについて、生徒に課題意識を持たせる工夫をしていきたい。	
取組内容③【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】（市 - 3・4 学-2） 実験・観察を多く取り入れことにより、理科に対する興味・関心を高め、様々な自然現象について論理的に説明する能力を育成する。	B
指標	
・令和 3 年度の 3 年中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を 2 割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、前年度（3 年 42.3）より 2 ポイント増加させる。 ・令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「理科の学習に主体的に取り組んでいる。」の項目について肯定的に答える生徒の割合を 80%以上にする。 ・令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力の育成のため、	

言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える教職員の割合を 95%以上にする。	
・令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度（92%）より増加させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
・令和 3 年度の 3 年中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を 2 割以上上回る生徒の割合は 38.3%であり、前年度より減少した。2 年は 44.6%であった。	
・学校生活アンケートにおいて「理科の学習に主体的に取り組んでいる。」の項目について肯定的に答える生徒の割合は 90%となり、目標値を大きく上回った。	
・「思考力・判断力・表現力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える教職員の割合は 97%であり、目標値を上回った。	
・「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合は 89%であった。	
【取組内容】について	
・昨年度より取り組んでいた振り返りシートを活用し、生徒が単元ごとの授業を振り返る機会を設けることができた。	
・振り返りシートの作成について若手研修会等を通して共有を行った。	
・コロナウイルス感染拡大防止対策下で活動が制限され、話し合い活動を積極的に行うことができなかった。	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
・実験・観察の機会が減少したことが、令和 3 年度の 3 年中学生チャレンジテストにおけるポイントを減少させた一因であると考えられる。今年度より追加した、学校生活アンケートにおいて「理科の学習に主体的に取り組んでいる。」の項目について、肯定的に答える生徒の割合が目標値を上回ったのは、教科会で検討した振り返りシートを効果的に使えたからであると考えられる。引き続き、生徒に達成感を与えられる取り組みを支援していきたい。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（音楽科）	進捗状況
取組内容①【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】（学-2） 基礎発声の継続的な練習と、感性を育て表現力を培うためのよりよい教材の精選、生徒の興味・関心を生かした意欲的な学習を行う。	B
指標 ・学期に 1 回、歌唱もしくは器楽の実技テストを行い、表現活動における個々の次の目標設定に役立てる。 ・令和 3 年度学校生活アンケートにおける「音楽の授業に積極的に参加できた」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を 70%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
・思考力・判断力・表現力の育成のための言語活動や、ICT 機器を用いた資料の提示などの工夫	

を行っている。	
【取組内容】について	
・各学年、学期ごとに実技テストを実施した。また、学校生活アンケートにおける「音楽の授業に積極的に参加できた」の項目では肯定的な回答は91%であった。	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
・今年度は学年合唱コンクールを行うことができ、積極的に表現活動を行う生徒の姿が見られた。来年度もコロナウイルス感染対策によって活動が限られると思われるが、対策を行いながらできるかぎりの表現活動を行う。	
取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(学-2)	B
幅広い音楽分野の表現と鑑賞活動により、多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じとり、表現の創意工夫につなげていく。	
指標	
・全学年とも学期に一回鑑賞を行う。その際、西洋音楽に偏らず、世界の民族音楽や日本の伝統音楽なども取り上げる。	
・令和3年度学校生活アンケートにおける「授業で習った曲に興味を持つことができた」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と答える生徒の割合を70%以上にする。	
・令和3年度の学校生活アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度(92%)より増加させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
・思考力・判断力・表現力の育成のための言語活動や、ICT機器を用いた資料の提示などの工夫を行っている。	
【取組内容】について	
・各学年、学期ごとに鑑賞を行った。学校生活アンケートにおける「授業で習った曲に興味を持つことができた」の項目では肯定的な回答は86%であった。同じく「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目では肯定的な回答は92%であった。	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
・鑑賞活動に取り組む中で、ICT機器も活用しながら自分の考えをまとめる活動や、生徒が意見交換する時間を有効に使えるようにする。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (美術科)	進捗状況
取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(学一2)	A
発想力を豊かにし、知識・技能の向上に努め、意欲的に表現活動に取り組む態度を育てるため、取組内容や教材を精選する。	
指標	
・すべての題材で言語活動の充実を図り、振り返り用のプリントを利用して学習内容の定着を図る。	
・令和3年度末における学校生活アンケートで「美術の授業に積極的に参加できた」と	

答える生徒の割合について、全体の 90%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none">令和3年度後期における学校生活アンケートで「美術の授業に積極的に参加できた」と答える生徒の割合は95%で、目標の90%を上回っている。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none">どの題材も振り返り用のプリントや作品紹介カードを用いて、学習内容の振り返りと定着を図った。	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none">令和3年度後期における学校生活アンケートで「美術の授業に積極的に参加できた」と答える生徒の割合は、全体の結果、各学年ともに目標である90%を上回った。前期から数値が伸びたのは、この間に多様な課題に取り組んだ結果だと思われる。分野によって得意・不得意を感じやすいものではあるが、どの課題にも前向きに取り組むことができるよう、展開や声掛けを工夫していきたい。	
取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】（市一4） 造形的なよさや美しさ、素材の生かし方、作者の心情や意図と造形的な表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わう力を養うため、鑑賞活動の充実を図る。	B
指標 <ul style="list-style-type: none">各学年において、鑑賞活動を主とした単元を前後期各1回ずつ行う。令和3年度末の学校生活アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度（92%）より増加させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none">令和3年度前期の学校生活アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合は92%で、前年度と同等である。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none">各学年とも前後期で一回ずつ鑑賞活動を主とした単元に取り組んだ。	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none">グループ活動を取り入れづらい状況だが、書画カメラを用いて互いの作品の鑑賞を行うなど新たな取り組みを試すことができた。鑑賞活動については、評価項目が変わったため、必ずしも各学期に一度取り組む必要がなくなったと考える。しかし幅広い美術の活動に取り組むにおいて、今後も主として扱う時間をつくるよう心掛けていきたい。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（保健体育科）	進 捗 状 況
取組内容①【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】（学一8） <ul style="list-style-type: none">年度当初、男女共修での集団育成を重点的に行い、授業規律の確立、授業への意識の向上を図る中で授業効率を高め、運動量の確保に取り組む。教科書やワークシートで知識の理解を深め、体育館に設置された電子黒板を最大限に活用し、視覚的にもわかりやすい授業展開を図る。	B

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和３年度に校内で実施をする第２学年の体力テストにおいて、全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点を全国平均より向上させる。 ・令和３年度に校内で実施をする第２学年の体力テストにおいて、全国体力・運動能力、運動習慣調査における段階別総合評価（Ａ～Ｅ）の内、AB-DEの数値を全国平均より向上させる。 ・令和３年度の学校生活アンケートにおける「体力や運動能力向上のため、保健体育の授業や部活動等に積極的に取り組んでいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を70%以上にする。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和３年度後期の学校生活アンケートにおける「体力や運動能力向上のため、保健体育の授業や部活動等に積極的に取り組んでいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒が92%になり、年度目標である70%を大きく上回った。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団行動の充実を授業規律の根幹と考え、常に意識的に取り組むことができた。 ・令和３年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点を全国平均より向上させるについて、体力合計点男子 41.18(全国)39.70(東中学校)1.48(－)、女子 48.56(全国)48.34(東中学校)0.22(－)となった。全国平均より下回る結果となった。 ・令和３年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における段階別総合評価（Ａ～Ｅ）の内、AB-DEの数値を全国平均より向上させるについて段階別総合評価 AB 男子 31.4(全国)29.9(東中学校)1.5(－)、女子 57.7(全国)61.2(東中学校)3.5(＋)となった。段階別総合評価 DE 男子 32.7(全国)40.2(東中学校)7.5(＋)、女子 15.4(全国)13.3(東中学校)2.1(－)となった。女子は全国平均より AB の割合が多く、DE の割合が少なくなり全国平均より向上した。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の主体的な活動を目指し、授業計画や授業実践に努めている。その成果もあり体育に積極的に参加をする環境が整いつつある。しかしながら、体育(運動)を苦手とする生徒へのアプローチには課題が残っている状況である。様々な生徒が、授業への興味関心を高めることができるよう、ICT 機器も使いさらに工夫改善を図りたい。 	
<p>取組内容②【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】（市－5）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの実施に向けて、昨年度の結果を再掲示するとともに自己の昨年の記録をもとに今年度の目標を設定させることで、意欲的に体力テストに臨む姿勢を育てる。 ・体力テスト実施後の結果について、一昨年度の全国・大阪府と比較分析したものを掲示し、自己の記録との比較を通して、課題を見つけさせるなど、生徒の意識向上を図る。 ・令和３年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である 50m 走と立ち幅とびの平均の記録を、平成 28 年度より 50m 走(男子 8.05・女子 8.98)は 0.1 ポイント、立ち幅とび(男子 195.00・女子 167.84)を 3 ポイント向上させる。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和３年度に校内で実施をする第２学年の体力テストにおいて、一昨年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における段階別総合評価（Ａ～Ｅ）の内、AB の割合を男子 35%以上、女子 65%以上にする。 ・令和３年度に校内で実施をする第２学年の体力テストにおいて、一昨年度の全国体 	

<p>力・運動能力、運動習慣調査における段階別総合評価（A～E）の内、DE の割合を男子 25%以下、女子 15%以下にする。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・50m走と立ち幅とびの平均の記録の 28 年度との比較について、50m走は男子が H28(8.06)、R3(7.98)となり 0.08 ポイントプラス、女子は H28(8.76)、R3(8.70)となり 0.06 ポイントプラスとなった。立ち幅とびは男子が H28(197.68)、R3(200.41)となり 2.73 ポイントプラス、女子は H28(167.33)、R3(168.88)となり 1.55 ポイントプラスとなった。2 種目男女ともに目標を達成することができた。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力テストを意欲的に取り組めるよう、昨年度の結果を再掲示した。 ・令和 3 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における段階別総合評価（A～E）の内、AB の割合を男子 35%以上、女子 65%以上にするについて男子 29.9、5.1(－)、女子 61.2、3.8(－)となり設定目標を下回る結果となった。 ・令和 3 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における段階別総合評価（A～E）の内、DE の割合を男子 25%以下、女子 15%以下にするについて男子 40.2、15.2(+)、女子 13.3、1.7(－)と女子は設定目標を上回ることができた。 	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に見れば運動に興味をもち、前向きに授業に取り組む姿勢が整いつつあるが、一部の生徒には運動が苦手であることから消極的な姿勢が見受けられる。「健康や体力を保持増進する」という観点から、毎時間実施している準備運動の充実に今後も継続して取り組むとともに、生涯にわたり運動に親しむ姿勢を育むために、全ての単元において協同学習（小集団）での授業展開に重点を置き、学び合いの中からリーダー育成、運動が苦手な生徒の支援などに取り組む。 	
<p>取組内容③【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】（学－8）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力テスト・体育大会・マラソン大会・球技大会を日頃の体育の授業や部活動での成果を発揮する場として位置づけ、体育委員会を中心とした主体的活動に取り組む。 ・体育大会実行委員会活動や縦割り活動を積極的に行い、学年間の交流を深め、主体的に行事や授業に取り組ませることで効果的な伝承を図る。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 3 年度の後期学校生活アンケートにおける「学校行事である体育大会では自分の力を十分に発揮できる」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を 80%以上にする。 ・令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度（92%）より増加させる。 ・体育委員会による昼休みの「ボールの貸し出し」活動を本年度も年間を通して実施し、主体的に運動に親しむ機会を設ける。 ・夏休みの水泳指導を実施する。 	<p>B</p>
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 3 年度後期の学校生活アンケートでは「学校行事である体育大会では自分の力を十分に 	

<p>発揮できる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒が 87%になり、年度目標である 70%を大きく上回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 3 年度後期の学校生活アンケートにおける「体力や運動能力向上のため、保健体育の授業や部活動等に積極的に取り組んでいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒が 92%になり、年度目標である 70%を大きく上回った。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 3 年度後期の学校生活アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合が 92%で、年度目標である前年度(92%)と同等であり、増加させる目標は達成できなかった。 体育委員会による昼休みの「ボールの貸し出し」活動を本年度も年間を通して実施し、主体的に運動に親しむ機会を設けている。 夏休みの水泳指導を 2 回実施した。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒たちの主体的な活動が、体育大会という期間限定の活動になるのではなく、日常の授業に重点を置いて、体育委員を中心とした「共同学習」を取り入れた授業が展開できるよう工夫をしたい。 	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (技術・家庭科)	進捗状況
<p>取組内容①【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】(学—5)</p> <p>ICT 機器を活用した学習活動を通して、基礎的・基本的な内容の定着を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 3 年度の学校生活アンケートで「授業に積極的に取り組み、基礎的な知識や基本的な技術が身についた。」と答える生徒の割合について、全体の 80%以上にする。 令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「学校は ICT 機器を活用して、授業実践に努めている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を 80%以上にする。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校は ICT 機器を活用して、授業実践に努めている。」と答える教職員の割合は 89%で指標を超えている。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「授業に積極的に取り組み、基礎的な知識や基本的な技術が身についた。」と答える生徒の割合は全体の 90%で指標を超えている。前期に比べると 4 ポイント上がっている。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT 機器に関しては、効果的な活用についての工夫・改善がこれからも必要であると思われる。今後、実習においても ICT 機器を効果的に使い、生徒の学習意欲の向上を図り、基礎的・基本的な知識・技能の定着に努めていく。また、タブレットを用いた授業についても進めていくように努めていく。 「授業に積極的に取り組み、基礎的な知識や基本的な技術が身についた。」と答える生徒の割合が全体の 90%で指標を超えている理由として、新型コロナウイルス感染症対策を十分に行い、実習を実施したことが考えられる。実技教科としては、昨年度より制限された状況のなかで実習を 	

行うことは感染まん延が考えられるため、実施に対して二の足を踏む気持ちであったが、今後も配慮をして進めていく。		
<div>取組内容②【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】（市—4 学—2）</div> <div>工夫し創造する能力の育成をねらい、言語活動を取り入れた授業実践を行う。</div> <div>指標</div> <div><ul style="list-style-type: none">・3カ年の指導計画を見通しながら、各領域で少なくとも1回は言語活動を取り入れた授業実践を行う。・令和3年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える教職員の割合を95%以上にする。・令和3年度の学校生活アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童（生徒）の割合を、前年度（90%）より増加させる。</div>	B	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<div>【年度目標】について</div> <div><ul style="list-style-type: none">・「思考力・判断力・表現力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」と答える教職員の割合は100%であった。</div> <div>【取組内容】について</div> <div><ul style="list-style-type: none">・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童（生徒）の割合は92%で指標を2ポイント上回っている。・今後各領域において言語活動を取り入れ、新型コロナウイルス感染症対策の工夫をして授業実践を行っていく。</div>		
次年度への改善点		
<div>【目標設定】について</div> <div><ul style="list-style-type: none">・来年度以降も班活動や実習内での言語活動を新型コロナウイルス感染症対策の十分な工夫をして、取り組んでいく。</div>		
<div>取組内容③【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】（学—6）</div> <div>技術分野の学習において、論理的思考を促す授業展開を行う。</div> <div>指標</div> <div><ul style="list-style-type: none">・令和3年度の学校生活アンケートで「技術家庭科（技術分野）の授業におけるプログラミング学習において、論理的に考えるための手順を学ぶことができた」と答える生徒の割合を80%以上にする。</div>	B	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<div>【年度目標】について</div> <div><ul style="list-style-type: none">・「技術家庭科（技術分野）の授業におけるプログラミング学習において、論理的に考えるための手順を学ぶことができた」と答える生徒の割合は90%で指標を10ポイント上回っている。</div> <div>【取組内容】について</div> <div><ul style="list-style-type: none">・指標より10ポイント上回っているが前年差では－1ポイントとなっている。これは、アンケート実施時はプログラミング実習が始まっておらず、現3年生が2年生時の終わりに行った実習の結果が主に反映されていると思われる。コロナ禍で実習時間が確保できなかったことがわずかに影響しているのではないと思われる。</div>		

次年度への改善点	
【目標設定】について ・3年生の授業数が週 0.5 時間になることを考え、実習の時間をしっかりと確保するための準備を行っていく必要がある。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（英語科）	進捗状況
取組内容① 【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】（市-1・3） 英語での表現活動を多く取り入れることにより、表現力を育成する。	B
指標 ・令和3年度の中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度（3年 1.13、2年 1.19）より向上させる。 ・令和3年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度（3年 47.2、2年 57.0）より2ポイント増加させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について ・チャレンジテストについて 3年生の対府比は「1.11」となり、3年生ではわずかに目標に届かなかった。2年生は「1.18」で、わずかに下回った。1年生は「1.13」であった。 また、3年生の府平均を2割以上上回る生徒の割合は「45.6」となり、わずかに目標に届かなかった。2年生は、「51.9」で5.1ポイント減少した。1年生は、「44.7」であった。 【取組内容】について ・音読テストや、C-NETと1対1の会話テスト、英作文などに取り組むことで、表現力の育成に努めた。	
次年度への改善点	
【目標設定】について ・コロナ禍でも工夫をすることで一定の表現活動は行うことができた。今後も授業の中で、ライティングやスピーキングなどの言語活動を取り入れることによって、引き続き表現力を育成するように努める。	
取組内容② 【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】（市-2 学-1） 個に応じた指導方法を工夫し、基礎的・基本的な学力の向上を図る。	B
指標 ・令和3年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度（3年 20.0、2年 9.1）より2ポイント減少させる。 ・令和3年度の学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授業はわかりやすい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を90%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について ・チャレンジテストについて 3年生の府平均の7割に満たない生徒の割合は「24.2」となり、4.2ポイント増加した。2	

年生は、「13.1」となり、4ポイント増加した。1年生は、「10.1」であった。	
【取組内容】について	
・令和3年度後期の学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授業はわかりやすい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合は89%（前年度比±0p）で目標にわずかに届かなかった。	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
・多くの生徒が習熟度別少人数授業を好意的にとらえている。今後も、英検対策も含めて習熟度別少人数授業を効果的に実施し、基礎的・基本的な学力の向上を図る。	
取組内容③ 【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】（市-4 学-4） 英語を活用する実践的な力と積極的な態度を育成する。	B
指標	
・令和3年度の学校生活アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。	
・令和3年度の学校生活アンケートにおける「英語の授業でのアクティビティに積極的に取り組んでいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を90%以上にする。	
・C-NET（大阪市外国人英語指導員）の授業を、各学級あたり年間で15時間程度実施する。	
・英語能力検定試験を希望者を対象に校内で実施する。英語学習に対する動機付けとともに、英語を使用できる能力を身につけさせる。また、3年生で3級（中学校卒業程度）以上の生徒の割合を10%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
・令和3年度後期の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合は92%（前年度比±0p）で、目標を達成した。	
・令和3年度後期の学校生活アンケートにおける「英語の授業でのアクティビティに積極的に取り組んでいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合88%（前年度比±0p）で、目標に少し届かなかった。	
【取組内容】について	
・C-NET（大阪市外国人英語指導員）の授業は、1月末現在で3年は9時間、1・2年は10時間ずつ実施した。2人勤務の状況ではあるが、中学校への勤務日が限られているため、またコロナでの休校の影響を受け、年間15時間の実施は難しい状況にある。	
・C-NET（大阪市外国人英語指導員）は校区の4小学校と兼任のため、中学校への勤務日は週1～2回であり、その勤務日に順番に3学年全クラスの授業を実施している状況にある。今後も限られたC-NET（大阪市外国人英語指導員）の授業を効果的に活用し、またさまざまなアクティビティを取り入れることで、英語を活用する実践的な力と積極的な態度を育成する。	
・第1回、第2回（2年生全体）の英語能力検定試験は感染症対策をした上で行い、多数の合格者を出すことができた。また第3回は2級のみに対象者をしぼって実施し、27名（1次合格者4名を含む）が受検した。	
・また、3年生で実施した英語テストGTECではA1,3（英検3級相当）以上のスコアを取っているのは約50%となり、目標を大きく超えることができた。さらにA2（英検準2級相当）以	

上の生徒は全体の 12 %であった。	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
・C-NET の両名の先生の英語科の活動や生徒への理解も素晴らしいので、今後引き続き発表型の活動への支援など、発展的な取り組みへのサポートも視野に入れて指導していく。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（ICT 教育推進部）	進捗状況
取組内容①【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】(学-5)	A
授業力向上に向けて、授業における ICT 機器の補完的活用法を研究する。あわせて、ICT 機器の整備と効率的な運用を図る。	
指標	
・令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「学校は ICT 機器を活用して、授業実践に努めている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を 80%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
・学校生活アンケートにおける「学校は ICT 機器を活用して、授業実践に努めている」と答える教職員の割合は 100%であった。	
【取組内容】について	
・オンライン授業やハイブリッド授業の準備と実施、1 人 1 台学習者用端末の活用（心の天気）など、着実に歩みは進めている。今年度前期のアンケート結果から 11 ポイント上昇し、100%になったことから教職員全体で東中学校の ICT 教育推進を行えているといえる。	
次年度への改善点	
【目標設定】について	
・東中学校全体の ICT 教育推進により一層邁進していきたい。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（健康教育部）	進捗状況
取組内容①【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】(学-9)	A
生涯にわたり健康な心身を保持増進できるように、生活習慣や自己管理能力を身につけさせる。	
指標	
・保健指導（保健だより・健康教室の開催など）を各学期に 1 回、定期的に行う。	
・ポスター掲示、プリントの配布などを通して、啓発活動を行う。	
・令和 3 年度の学校生活アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 85%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
・生徒アンケートの結果は、前年度と同じ 98%だが、新型コロナ対策に取り組んでいることもあり、目標値は大きく上回っている。	
【取組内容】について	
・「保健だより」等のプリント配布や、ポスター掲示を通して健康に関する啓発を行っている。	
・各教室においても、換気・空気清浄機の利用・消毒液の設置・手洗い・黙食の実施など健康的	

な生活の維持に努めている。	
次年度への改善点	
【目標設定】について ・今後も、手洗い・うがい・換気・消毒・黙食などの取り組みを継続して進めていく。	
取組内容②【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】(学-10) 望ましい食生活を身につけさせ、「食」への意識を向上させる。	B
指標 ・月1回の『食育だより』を通じて、生徒や保護者に「健康や体力を保持増進する力」を育成する。 ・令和3年度の学校生活アンケートにおける「栄養バランスや食べる時間・量等を考えて食事をするように心がけている。」の項目について、「当てはまる(どちらかといえは当てはまる)」と答える生徒の割合を70%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について ・生徒のアンケートの結果は、昨年度より－2ポイントの81%であり目標値を上回っている。 【取組内容】について ・「食育だより」を月1回のペースで発行している。 ・1年生では昨年度に引き続き、4月に食育の内容で授業を行った。 ・2年生では給食係が、残食調査を行った。	
次年度への改善点	
【目標設定】について ・給食時間は限られた時間ではあるが、食事の準備から片付けも含めて食事の時間を大切にするように生徒に働きかけていく。また来年度も新型コロナ対策の観点から、黙食にも気を付けて取り組んでいく。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (人権道德委員会)	進捗状況
取組内容①【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】(学一7) 基本的な道德指導や人権尊重の姿勢について教職員が理解を深められるように、研修等の情報提供を行う。また、帰国・来日等の生徒や外国にルーツのある生徒についての情報共有や支援を適宜行い、違いを尊重し認め合える教育活動を展開していく。	B
指標 ・人権教育実践交流会、道德学習会の参加を呼び掛ける。また、人権道德関係の研修案内や通信の配付、ポスター掲示、回覧等で情報提供を適宜行う。 ・令和3年度の学校生活アンケートにおいて「帰国・来日等の生徒や外国にルーツのある生徒が学校生活を円滑に送れるよう、日本語指導をはじめとする直接的な支援をするとともに、違いを尊重し認め合えるよう配慮しながら教育活動を進めている」と答える教職員の割合を90%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について ・学校生活アンケートにおいて「帰国・来日等の生徒や外国にルーツのある生徒が学校生活を円滑に送れるよう、日本語指導をはじめとする直接的な支援をするとともに、違いを尊重し認め合えるよう配慮しながら教育活動を進めている」と答える教職員の割合は97%であった。 ・日本語教室の通級が修了したが、未だ支援を要する1年生の生徒に対しては、週2回の国語の	

<p>授業でもう一人教員が補助に入る体制を整え、支援を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子翻訳機を購入し、各学年に1台ずつ配備している。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度も各種研修会が人数制限されたり、中止になったりすることがあり、道徳研修や人権道徳関係の研修案内はあまりできなかったが、中央区人権教育実践交流会では、人権教育主担が受けた報告を各教職員が閲覧し、感想を記入した。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰国・来日等の生徒や外国にルーツのある生徒の支援体制をより充実したものにできるよう、改善を図っていきたい。 ・道徳・人権学習教材の情報提供を積極的に行っていきたい。 	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（校長経営戦略支援予算基本）	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】（学-2）</p> <p>「地域探訪」と銘打った班別フィールドワークを実施し、地域の歴史や伝統文化に触れながら郷土大阪を愛する心を育み、地域社会へ貢献する態度と意識を養う。また、班で調べた地域の歴史や伝統文化についての内容を様々なスタイルを用いてプレゼンテーションすることで、PISA型学力の醸成による学力向上をねらう。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者や社会との関係だけではなく自己と対話をしながら自らの考えを深め、地域という自分自身の基盤の中で行動していくきっかけとなる班別フィールドワークを実施する。 ・課題発見・解決能力や論理的思考力、コミュニケーション能力、多様な観点から考察する能力の向上をねらい、プロセス重視のプレゼンテーションを実施する。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <p>後期学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」の項目について、肯定的に答える教職員の割合は100%であった。昨年通り10ポイント上回った。</p> <p>コロナ禍においても、本校教育の強みである言語活動を活用した授業の工夫改善を図りながら取り組んでいる成果であると考え。</p> <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2学期に2年生が班別フィールドワークを実施し、地域の歴史や伝統文化に触れる機会を得ることができた。また、班別にタブレットを所持して撮影した活動写真を、事後のまとめとして一人一台学習者用端末を活用した班別プレゼンテーションを実施するなど、コロナ禍ではあったが、創意工夫を凝らして班活動を基盤としたグループワークを展開することができた。 	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じた学習活動における課題設定の最適化を図りながら、生徒による主体的・協働的な活動を通して読解力・思考力・判断力・表現力・学びに向かう姿勢を育成する必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた環境下で、ICTを最大限に活用したり、オンライン授業を行ったりするなど教育活動の工夫・改善を図りながら、最善の状況で取組を推進し、学びの保障につなげていく。 	

- ・また、各学年等における有益な取組実践を共有し、次年度以降に引き継ぎ、繋がりをもたせた教育を構築していきたい。

大阪市立東中学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【その他】 学校園の年度目標 1. 令和3年度の学校生活アンケートにおける「校内研修は教育実践に役立つ有益なものとなっている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える教職員の割合を100%にする。 2. 令和3年度の学校生活アンケートにおける「校区小学校と連携する機会を設け、小中の円滑な接続に努めるとともに、学習活動や生活指導等の場面で活用している」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える教職員の割合を100%にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（教務部）		進捗状況
<div>取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】（学-1）</div> <div>学校目標や今日的課題を含めた諸課題に基づき、各種の校内研修会を実施する。よりよい教育方法の研究に努め、教育活動実践上の様々な課題について研修を深める。</div> <div>指標</div> <div><ul style="list-style-type: none">学校目標や今日的課題を含めた諸課題に係る研修を学期に1回実施する。令和3年度の学校生活アンケートにおいて「校内研修は教育実践に役立つ有益なものとなっている」と答える教職員の割合を100%にする。</div>		A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<div>【年度目標】について</div> <div><ul style="list-style-type: none">令和3年度の学校生活アンケートにおいて「校内研修は教育実践に役立つ有益なものとなっている」と答える教職員の割合は100%で、目標を達成した。</div> <div>【取組内容】について</div> <div><ul style="list-style-type: none">4月に生活指導研修、9月にICT研修を行った。10月にはLGBTQの研修を実施した。また、職員会議の際にはICT研修を毎回実施している。</div>		
次年度への改善点		
<div>【目標設定】について</div> <div><ul style="list-style-type: none">今後、リモート授業を見据えたうえでの教育活動の諸課題解決に向けた実践力向上を目指し、研鑽を積むことの必要性の啓発や、よりニーズに合ったテーマを精選し、主体的な学びが構築できるよう研修を定期的に実施していく。</div>		
<div>取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】（学-1）</div> <div>公開授業週間を設けて、他教科の授業見学も行い、全教員が互いの指導力向上をめざして研鑽を積む。</div> <div>指標</div> <div><ul style="list-style-type: none">公開授業週間を年1回実施し、全教職員が行う。公開授業の見学参加者数を全教職員、2回は公開及び見学するものとする。</div>		A

<ul style="list-style-type: none">・令和３年度の学校生活アンケートにおいて「教員間で授業の方法についての意見交換し、指導内容・指導方法について話し合いを日常的に持ち、工夫と改善を行っている」と答える教職員の割合を全体の 90%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none">・令和３年度の学校生活アンケートにおいて「校内研修は教育実践に役立つ有益なものとなっている」と答える教職員の割合は 100%で、目標を達成した。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none">・令和３年度の学校生活アンケートにおいて「教員間で授業の方法についての意見交換し、指導内容・指導方法について話し合いを日常的に持ち、工夫と改善を行っている」と答える教職員の割合は 97%で目標を 7 ポイント上回った。・コロナ禍の中ではあるが、例年実施している公開授業週間を 10 月に実施した。	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none">・今後も、研修を生かし、教員の指導力向上を目指す。	
取組内容③【施策３ 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】(学-2)	B
小中の交流を深めるために、小中合同で研修会などを実施する。また、小中学校での相互授業参観や授業研究を実施することで、生活指導や学習指導方法の改善に役立てる。	
指標	
<ul style="list-style-type: none">・小中合同で研修会を実施する。・小中学校での相互授業参観や授業研究を実施する。・令和３年度の学校生活アンケートにおいて「校区の小学校と連携する機会を設け、円滑な接続や教育活動全般に生かしている」と答える教職員の割合を 100%にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none">・令和３年度の学校生活アンケートにおいて「校区の小学校と連携する機会を設け、円滑な接続や教育活動全般に生かしている」と答える教職員の割合は 100%であった。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none">・本年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、体験学習や部活動見学は実施できなかった。さらには例年行っている小中連絡会についても実施できなかった。	
次年度への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点を持ち、新たな小中の取り組みを検討・精査を目指す。	